

学校法人 同志社 事業報告書 2 0 1 1

今だからこそ

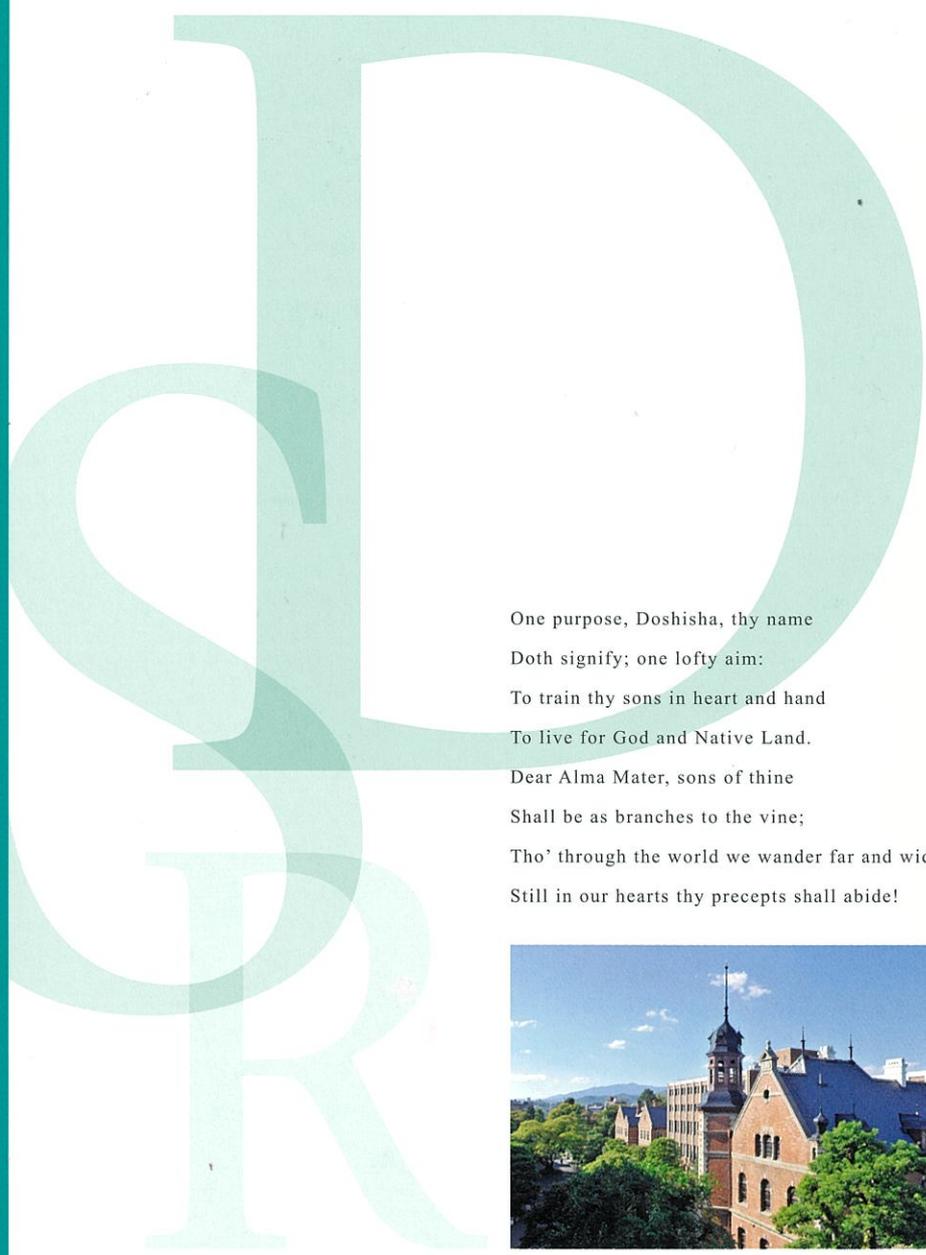
「良心教育」

を推し進め、未来を拓く！

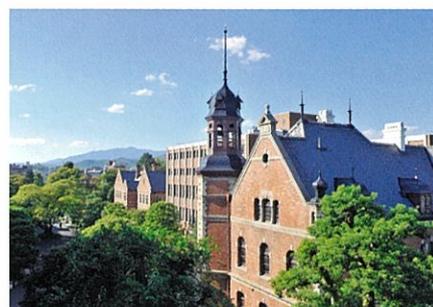
The Doshisha Social Responsibility Report 2011



学校法人 同志社
<http://www.doshisha.ed.jp/>



One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify; one lofty aim:
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!



学校法人同志社は、幼稚園から大学院まで14の学校を擁する一貫教育体制を確立しました。現在、約4万2,000名の学生・生徒・児童・園児が学ぶ総合学園に発展することができました。

1875年の創立以来、多くの困難を乗り越えて教育・研究活動を続けてこられたのは、ひとえに保護者や卒業生をはじめ、地域や行政機関、企業、一般市民の方々からの温かいご支援・ご指導があったからこそと、感謝しております。

2011年度は同志社国際学院の初等部・国際部を開校し、初等教育段階から、グローバルな観点に立った同志社教育を展開しています。また、同志社大学の京田辺校地に「グローバル・コミュニケーション学部」を開設するなど、建学精神の1つである「国際主義」のより一層の充実と水準の向上を図っています。

同志社創立者の新島襄は、「大学の完成には200年」と述べたと伝えられています。2011年11月29日に創立136周年を迎えた学校法人同志社は今後も、教育・研究に関する改革を推し進め、健全な学校法人運営を続けるため、あらゆるステークホルダー（利害関係者）の皆様に対して、情報公開を徹底してまいります。

最後に、本報告書の発行によって、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションがより一層促進されることを、心より願っております。

2012年5月26日
学校法人 同志社

本報告書の対象範囲
同志社法人部、ならびに幼稚園から大学までの各校。数値・金額にはそれぞれ対象範囲を付記しています。

本報告書の対象期間
2011年4月1日～2012年3月31日
(一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています。)

学校法人 同志社
事業報告書2011

2012年5月26日発行
発行：学校法人 同志社
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
URL <http://www.doshisha.ed.jp/>

無断転載を禁止します。
All Rights Reserved.
Printed in Japan ©The Doshisha
The Doshisha Social Responsibility Report 2011

お問い合わせは
学校法人同志社 法人部法人事務室
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-3006
FAX 075-251-4980
E-MAIL ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

Contents

目次

教育理念	3
法人内各学校	3
■ 大谷 實総長からのメッセージ	4
混迷の時代だからこそ求められる 新島襄がめざした良心教育	
■ 八田 英二理事長からのメッセージ	5
健全で安定した財政基盤で 教育・研究体制を支えます	
■ 【鼎談】 大学長、国際学院長、国際中学校・高等学校長	6
世界で通用する“人材”を育てるには、 初等・中等教育がカギを握っています	
同志社大学 八田英二学長、 同志社国際学院 大迫弘和校長、同志社国際中学校・高等学校 川井国孝校長	
■ 同志社女子大学長インタビュー	8
リベラル・アーツの理念のもと、 豊かな社会づくりに貢献できる女性を育てます	
同志社女子大学 加賀裕郎学長	
■ 周年記念プロジェクト	9
【同志社女子大学】 創立135周年を迎え、シンポジウムや記念礼拝などを実施 【同志社香里中学校・高等学校】 創立60周年記念事業、未来を担うキャンパス環境を整備	
■ ハイライト① 教育	10
大学院改革で世界をリードする研究者を育成 脳科学・薬学分野で、新たな研究科を4月に開設	
■ ハイライト② 研究	11
「研究大学」としてのステータス確立をめざし、 大学、女子大学で革新的な研究成果が相次ぐ	
■ ハイライト③ 保護者、受験生、卒業生への取り組み	12
同志社フェアを函館で初開催、全国で学校説明会	
■ ハイライト④ 地域社会への取り組み	12
「同志社京田辺祭」の開催などで、地域連携を推進	
■ ハイライト⑤ 国際連携への取り組み	12
「グローバル30」の着実な成果、2013年度に新たな学部	
■ ハイライト⑥ 環境問題への取り組み	13
約11%の節電に成功、世界学生環境サミットに参加	
■ ハイライト⑦ 寄付事業への取り組み	13
「立石ファンド」を活用し、中高生の英語力を強化	
■ 事業の概要	14
同志社大学	14
同志社女子大学	18
同志社中学校・高等学校	20
同志社香里中学校・高等学校	21
同志社女子中学校・高等学校	22
同志社国際中学校・高等学校	23
同志社小学校	24
同志社国際学院	25
同志社幼稚園	26
■ 【特集1】 新島八重の生涯	27
激動の時代を凛々しく生きた近代女性の“先駆者”	
■ 【特集2】 グラフで見る同志社	28
■ 財務の概要	30
概況	30
資金収支計算書	30
消費収支計算書	32
事業別決算	34
貸借対照表	34
財務比率	36
学校別の状況	37
2012年度の事業計画	38
■ 法人の概要	39
理事、監事、評議員 沿革	

教育理念

同志社は、1875(明治8)年、新島襄によって創立された、わが国有数のキリスト教主義の学園です。創立当時の生徒はわずか8名でしたが、現在は同志社大学、同志社女子大学のほか、4つの高等学校、4つの中学校、小学校、国際学院と幼稚園を含む総合学園となり、学生・生徒・児童・園児は約4万2,000名、教職員は1,900名を超えています。また30万名を超える卒業生は、経済・政治・宗教・教育・社会事業など多方面で社会のために活躍しています。

新島は同志社の教育目的を1888(明治21)年、全国に発表した「同志社大

学設立の旨意」の中で、次のように述べています。

「(同志社設立の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず(中略)、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂の良心を手腕に運用するの人物を出さんことを勉めたりき」^(*)

新島は、知育、体育だけでなく徳育を含めた「知・徳・体」の調和ある教育の実践を理想としていました。教育を通して生徒・学生が、型にはまらず独立心と才能あふれる^{てきとうふき}個傑不羈なる人物として、「自治自立の人民」「一国の良

心」となることを究極の目的としました。

同志社では新島の建学の精神を受け継ぎ、キリスト教主義、自由主義、国際主義を教育の重要な柱としています。また、生徒・学生の個性や彼らの自発性を尊重し、全人教育を通して広い視野から現状分析と将来展望を持って行動することのできる人間、自らの良心に従って生きる人間、新島の言う「自治自立の人民」の育成をめざします。グローバル化が進む21世紀では、ますます新島の建学の理念が、そして同志社教育が重要性を増すことでしょう。

(*)「同志社大学設立の旨意」『新島襄全集』より

法人内各学校



法人部

同志社大学

Doshisha University

学部 ——— 神学部／文学部／社会学部／法学部／経済学部／商学部／政策学部／文化情報学部／理工学部／生命医科学部／スポーツ健康科学部／心理学部／グローバル・コミュニケーション学部

大学院 ——— 神学研究科／文学研究科／社会学研究科／法学研究科／経済学研究科／商学研究科／総合政策科学研究科／文化情報学研究科／理工学研究科／生命医科学研究科／スポーツ健康科学研究科／心理学研究科／グローバル・スタディーズ研究科／脳科学研究科

専門職大学院 — 司法研究科(ロースクール)／ビジネス研究科(ビジネススクール)
日本語・日本文化教育センター(留学生別科)



同志社女子大学

Doshisha Women's College of Liberal Arts

学部 ——— 学芸学部／現代社会学部／薬学部／表象文化学部／生活科学部

大学院 ——— 文学研究科／国際社会システム研究科／薬学研究科／生活科学研究科



同志社中学校・高等学校

Doshisha Junior and Senior High School



同志社香里中学校・高等学校

Doshisha Kori Junior and Senior High School



同志社女子中学校・高等学校

Doshisha Girls' Junior and Senior High School



同志社国際中学校・高等学校

Doshisha International Junior and Senior High School



同志社小学校

Doshisha Elementary School



同志社国際学院初等部・国際部

Doshisha International Academy Elementary School and International School



同志社幼稚園

Doshisha Kindergarten



(2012年4月現在)



おお やみのる
大谷 實
総長からのメッセージ

Message from
Chancellor

混迷の時代だからこそ求められる 新島襄がめざした良心教育

——2011年の最大の出来事は、3月11日に発生した東日本大震災です。

東日本大震災は、日本に大きなダメージを与えました。震災の被害に直接遭われた方々だけでなく、東京電力福島第一原子力発電所の事故のため、近隣住民の方々も、いまだに苦しい生活を強いられています。被災者やご遺族の皆様は改めて哀悼の意を表しますと共に、被災地の1日も早い復興を、心よりお祈りしています。

——東日本大震災を契機に日本では、これまでの「物質文明」の時代から、「心の時代」「倫理の時代」にパラダイムシフトしなければならないという意見が出ています。

その点に関しては、様々な場面でお話ししているのですが、心の時代・倫理の時代には、「自分の人生をどう生きるか」を、一人ひとりが自覚することが大切だと思います。つまり、「個人主義」を徹底しようということです。

いま日本は、混迷の時代に入っています。国民の多くは、「何を目標にして人生を歩むべきか」について、思い悩んでいると思います。そうした状況を打破するにはやはり、一人ひとりが自

分の人生を自覚しながら強く生きるという意味での「個人主義」が重要になると思っています。

——新島襄の妻・八重は、まさに個人主義を貫いた人でした。

八重はあの時代の女性としては珍しく、自らの力で人生を切り開き、迷うことなくその道を歩み続けた人でした。個人主義というと「利己主義」と誤解されがちですが、私が言う個人主義とは、「良心に従って生きる自治・自立の人間」をめざすことです。

法律学者の立場から言いますと、日本国憲法第13条では、個人の尊重（尊厳）と幸福追求権を保障しています。すべての国民は個人として尊重され、公共の福祉に反しない限り、自らの幸福を追求する権利を持っているのです。つまり個人主義とは、この「幸福追求権」を大切にすることなのです。

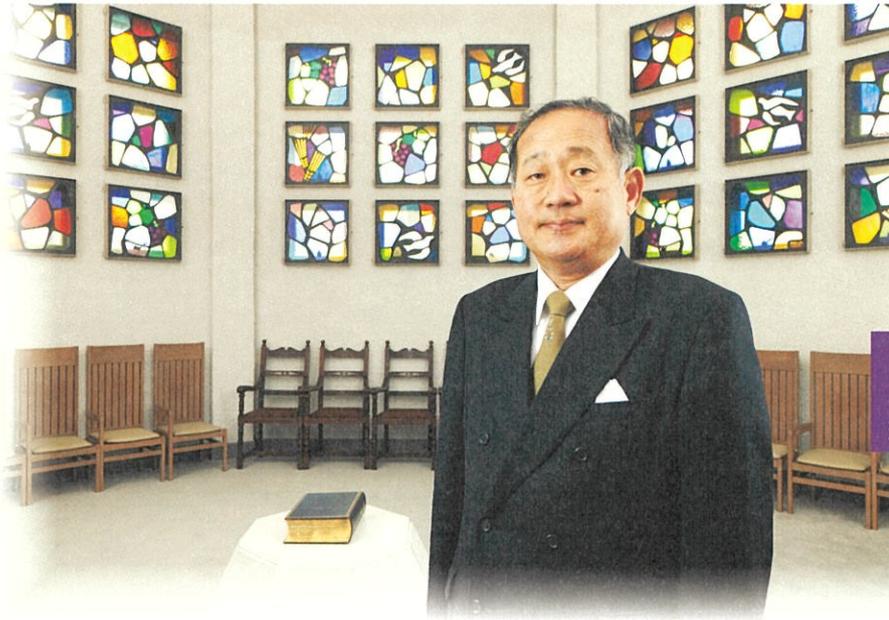
個人主義を大切にすることは、震災からの復興にもプラスになります。まずは国民一人ひとりが八重のように、個人主義を貫いて生きることが大切です。それが、東日本大震災からの復興に欠かせない「絆」や、社会との「連帯・共生」にもつながってくるのではな

いでしょうか。

——心の時代・倫理の時代には、同志社の「良心教育」が目ざされそうです。

いまだからこそ、新島襄が掲げた良心教育が求められていると思います。幸いにして学校法人同志社は、幼稚園から大学院までの一貫教育体制を整えています。その強みを生かし、園児・児童・生徒・学生・院生の成長度合いや発達段階に合わせて、「キリスト教主義」「国際主義」「自由主義」を基礎とした良心教育を実践しています。良心教育によって、これからの時代にふさわしい高潔で優れた人材を世に送り出すことが、私たち同志社のミッションなのです。

また、少子化や国・公教育改革などの影響で、私学を取り巻く環境は厳しさを増しています。学校間の激しい競争を勝ち抜くには、学校法人同志社の特色やアンデンティティーを前面に押し出した教学の理念と、その実践が求められます。新島襄が掲げた「良心教育」こそが、同志社ブランドであり、そのブランドをアピールしていくことが、これからの競争を勝ち抜くカギになると確信しています。



は た えい じ
八田 英二
理事長からのメッセージ

Message from
Chairperson

健全で安定した財政基盤で 教育・研究体制を支えます

——同志社大学文系学部の2拠点体制に、ようやく終止符が打たれます。

より体系的で一貫性のある教育を実現するため、同志社大学は2013年4月に、文系全学部の拠点を今出川校地に集約します。そのため、今出川キャンパスと烏丸キャンパスで、新棟の建設を進めています。2012年10月にはすべての新築工事が終わり、関連施設の移転作業が始まります。文系全学部の集約後は今出川・京田辺校地の特色を明確に位置付け、総合大学としての充実度を高めていきます。

——文系学部の今出川校地への統合によって、京田辺校地の学生数が減少します。

京田辺校地の今後の発展には、学校法人同志社の総力を結集して取り組んでいます。例えば2012年4月に京田辺校地に、同志社大学の「脳科学研究科」と「スポーツ健康科学研究科博士後期課程」を新設しました。翌2013年4月からは、スポーツ健康科学部の入学定員を増やします。

同志社女子大学も、新たな教育組織を開設しました。2012年4月に開設した大学院薬学研究科(医療薬学専攻博

士課程、4年制)です。同志社女子大学としては4つ目の研究科になり、基礎薬学と医療薬学を包括した総合的な学術としての薬学を体系的に修得できます。社会人学生も、積極的に受け入れていきます。

——国際化への対応も、着実に進んでいます。

同志社国際中学校・高等学校に続き、2011年には同志社大学附属「同志社国際学院」を開校しました。同志社大学に「グローバル・コミュニケーション学部」を開設したのも、国際化推進の一環です。2013年には「グローバル地域文化学部」(届出手続中・収容定員増加の認可申請中)を、今出川校地に開設する予定です。

また、文部科学省から採択を受けた同志社大学の「国際化拠点整備事業」(グローバル30)は2011年度で3年目に入り、着実に成果が上がっています。同志社大学が受け入れた留学生の数は、当初の計画通りに進んでいます。英語だけの学位プログラムも、学部と研究科の両方で始まりました。大学独自の資金を投入して、留学生奨学金制度の充実も図っています。

——研究活動の強化と活性化にも、力を注いでいます。

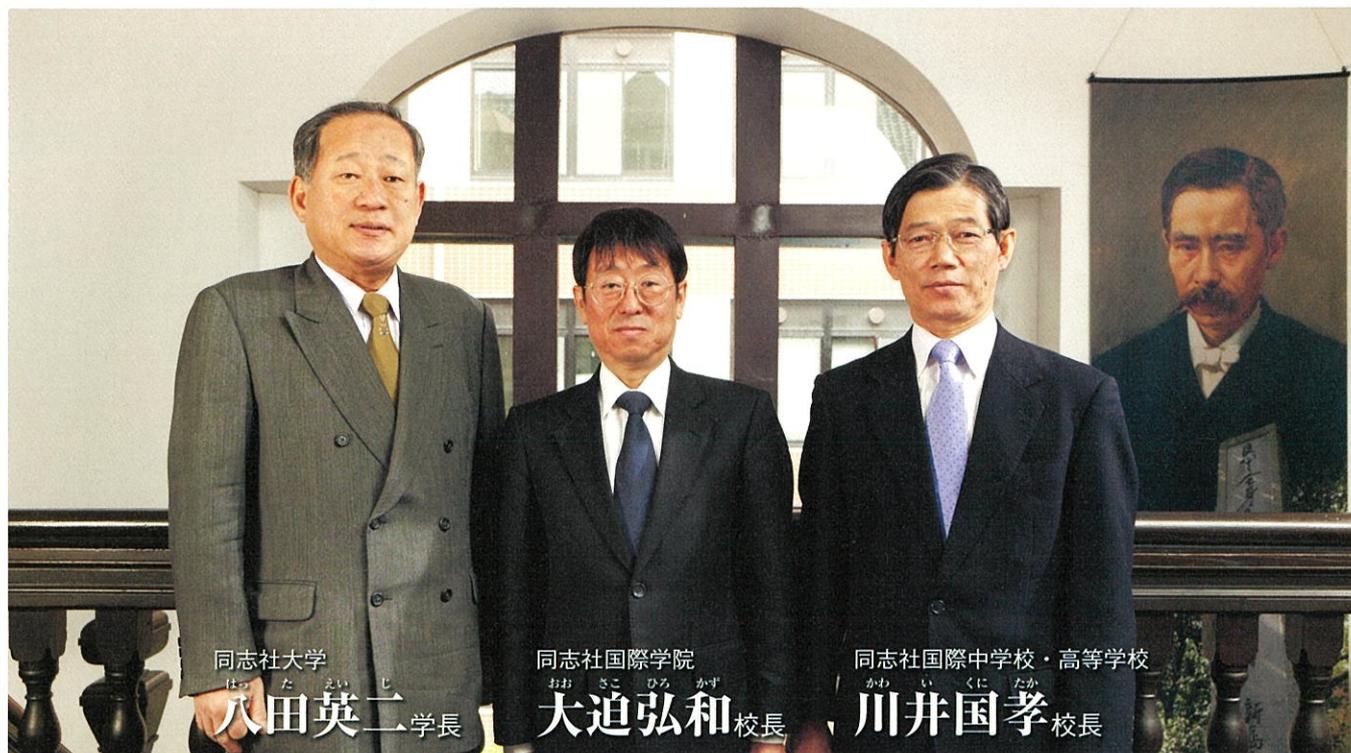
研究活動の強化・活性化を担うのは、若手の研究者です。彼らの育成を図るため2012年4月から、脳科学研究科と既存の研究科博士後期課程の学費を実質的に無料にしています。日本の大学院では、初めての試みです。

ただし、教育研究体制を強化するには、財政基盤の安定化がカギになります。幸いなことに学校法人同志社は2012年も、格付投資情報センター(R&I)から8年連続で、「AA+(プラス)、方向性は安定的」という格付維持の決定を受けました。今出川校地の整備事業などの大きな事業もすべて自己資金で賄っており、「財務状況が悪化する懸念は乏しい」というお墨付きをもらっています。

こうした健全で安定的な財政基盤が、教育研究体制の強化を支えています。今後の様々な事業を確実に実行するためにも、寄付金の募集や補助金の新規開拓といった収入構造の多様化に取り組み、財政基盤のより一層の安定化に向けて、全力を挙げていきます。

(栄光館 瞑想室にて)

世界で通用する“人材”を育てるには、 初等・中等教育がカギを握っています



——2011年に同志社国際学院が開校し、英語による一貫教育の基盤が整いました。

八田 同志社大学の前身は、1875年創立の「同志社英学校」です。創立者の新島襄は、「自ら立ち自ら治むるの人民の育成」を教育の目的に据え、その基盤をキリスト教主義に求めました。同志社の教育の特長は、キリスト教主義や国際主義に立脚した人物育成に対する強い信念です。

国際主義教育を推進し、一貫教育体制をさらに強化するために同志社大学は、「同志社国際学院初等部」(小学校)を2011年4月に開校しました。2011年9月には、小学校から中学校、高校まで12学年の児童・生徒が学ぶインターナショナルスクール「同志社国際学院国際部」(Doshisha International School, Kyoto-DISK)を開校しました。これにより、初等・中等教育段階での国際主義の一層の強化を図ることがで

きたと考えています。

——キリスト教主義と国際主義に立脚した人物を育てるために同志社国際学院では、どのような教育を行っておられますか。

大迫 大人になって責任ある市民として社会に参加するために、子供の間身に付けておかなければならないのは、世界共通のことだと思います。そこに、同志社の国際主義の一層の強化のために開校した国際学院の大きな使命があると考えています。

こうした考えのもと、同志社国際学院で学ぶ子供たちを、2つ以上の言語を話すだけでなく、様々なコミュニケーション手段を使って自分の考えを伝え、相手を理解できる人に育てたいと思っています。言い方を換えれば、「日本の歴史や文化を理解・尊重すると同時に、外国の伝統や価値観を受け入れることができる人」ということです。こうした人こそが、これからの国際社会に貢献

できると考えています。

——同志社国際中学校・高等学校も、キリスト教主義や国際主義に立脚した国際的な学校です。

川井 同志社国際中学校・高等学校では、国際化が急速に進む中、国内外からの熱い要望を受けて、「帰国生徒受け入れ専門校」として1980年に高等学校が、1988年に中学校がそれぞれ開校しました。いまでは、帰国生徒教育における関西の雄となっています。私たちは、同志社の基本理念である「キリスト教主義」、「自由主義」、「国際主義」に基づき、国際社会で活躍できる人材の育成をめざしています。

——両校の教育面の具体的な特長について、それぞれの立場からお話してください。

八田 同志社国際学院初等部は、小学校6年間の授業時間の約55%を英語で行う日英のバイリンガルスクールです。DISKは、世界中から集まった子供たち

が、国際標準化されたカリキュラムで学ぶインターナショナルスクールです。

同志社国際中学校・高等学校は、全生徒の3分の2が「帰国生徒」、3分の1が「国内一般生徒」という構成です。バックグラウンドが全く異なる生徒構成になっていますので、授業を中心とするあらゆる教育活動において、「自由」と「多様性」を最大限に生かしています。

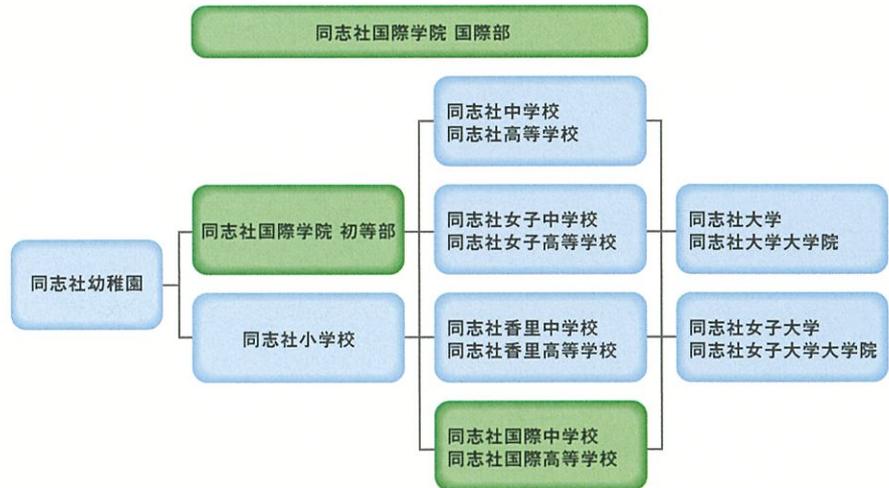
大迫 同志社国際学院初等部の入学定員は、1学年2学級で合計60名です。国際的な生育背景を持った児童と国内の一般児童を対象に、日本語をしっかり勉強した上で、英語の力を身に付ける日本語基盤型の日英バイリンガル教育を行っています。

初等部の英語教育は、「TIE」(Time in English) と呼びます。「TIE棟」という専用の施設において、全授業を英語ネイティブの教師が担当し、日本人のバイリンガル教師が補助に入ります。算数や理科なども、一部の授業は英語です。TIE以外の実技系の授業(体育、図工、音楽)も、すべて英語で行っています。

一方、DISKは入学定員が1学年1学級の25名で、すべての授業を英語で行っています。2012年3月23日には国際バカロレア機構より、11年生と12年生が学ぶ2年間プログラムである「DIPLOMA PROGRAM」の正式認可を受け、IB World Schoolの仲間入りを果たしました。

同志社国際学院は、初等部とDISKが同じ校舎にあります。そこで、「Two Schools One World」を校舎設計上のコンセプトに据えて、施設も工夫しています。教室棟では基本的に4階にDISK、3階に初等部のホームルーム教室が入っていますが、その他の施設(礼拝堂、図書館、体育館、フィールド、特別教室など)はすべて、両校が一緒に使用しています。

川井 同志社国際中学校・高等学校では、定員の3分の2の「帰国生徒」と3分の1の「国内一般生徒」が分け隔てなく、同じクラスで学校生活を送って



国際学院の開校によって、同志社の英語による一貫教育体制がさらに強化

います。帰国生徒と国内一般生徒が互いに刺激し合うことで、日本と世界を互いに理解・認識し、グローバルな感覚を身に付けることができます。

多様な生徒に対応するために、授業にも柔軟な工夫をしています。聖書・国語・社会・数学・理科・英語の6教科では、習熟度別クラス編成で授業を行っているため、自分に合ったレベルの授業を受けることができます。

先進的な施設である「コミュニケーション・センター」は、同時に5つのクラスの授業ができる広さがあり、240の座席、200台のコンピューター、約5万冊の図書、日本語・英語の複数のオンライン・データベースなどを備えています。様々な授業や生徒の自主活動に利用されており、私たちがめざすコミュニケーション教育の拠点になっています。

——最後に、世界で活躍できる国際人の理想像に関して、それぞれの立場からお話してください。

大迫 英語自体は、相互理解のためのコミュニケーション・ツールにすぎません。大事なのは、英語を使って自信を持って自分の考えを相手に伝え、失敗を恐れずに勇気を持って何事にも挑戦し、正義や公平・平等のために行動できる人になることです。そうした人が、これからの真の国際人ではないでしょうか。国際学院では、そのことを「IB Learner Profile」の10の学習者像を使って具体的な目標にしています。

川井 グローバル化とIT化の急激な進展によって、世界はどんどん狭くなる一方ですが、世界の人々や異なる文化間の距離は、逆に遠くなっているように思えます。こうした時代には、自己をしっかりと確立し、世界で通用する個性的な存在感を持ち、キリスト教主義で培われた「良心溢れる人」が求められます。

言い換えれば、自分のアイデンティティをしっかりと確立した上で、幅広く深い知識と高い語学力を身に付け、相手の多様な文化や立場を理解・尊重し、自分の考えをはっきりと主張できる人です。私はこういう人が、真の国際人と考えています。

八田 最近、日本企業で英語を“社内公用語”にする動きが活発になっています。企業のグローバル化が進めば、そこで働く社員もグローバル化せざるを得ません。世界中の様々な国・地域の社員と密接なコミュニケーションを取るために社内の公用語を英語にするのは、自然の流れではないでしょうか。英語というコミュニケーション・ツールを自在に操り、グローバルな視点を持って国際社会に貢献できるのが、これからの真の国際人だと思います。

そうした人材を育てるには、初等・中等教育がカギを握っています。その点で、小学校の段階からグローバルな視点に立った教育を行うことができる同志社は、大きな強みを持っていると考えています。



リベラル・アーツの理念のもと、 豊かな社会づくりに貢献できる 女性を育てます

同志社女子大学

かがひろお
加賀 裕郎 学長

——同志社女子大学は2011年10月24日に、創立135周年という節目の年を迎えました。

同志社女子大学の前身である女子塾は、1876年(明治9年)10月に、現在の京都御苑内にあった宣教師・J.D.デヴィス邸(旧柳原邸)において、女性宣教師・A.J.スタークウェザーと、同志社創立者である新島襄の妻・八重によって始められました。翌年の4月には、同志社分校女紅場(校長・新島襄)として正式な認可を受けて開校し、同年9月には、同志社女学校と改称されました。

その後、同志社女子専門学校を経て、現在に至っています。創立135周年を迎えて、多くの苦難を乗り越えて現在の礎を築かれた先人の方々に、改めて感謝の意を表したいと思います。

2000年以降は、社会の動きや学生ニーズの多様化に 대응するため、新たな学部・学科を相次いで開設しました。2012年4月には、薬学研究科が開設されます。5学部・10学科、4研究科・7専攻で約6,500名の学生が学ぶ女子総合大学になります。

——今後の同志社女子大学のあり方についてお聞かせください。

これからの時代にふさわしい女子総合大学を作りたいというのが、私の願いです。

同志社女子大学は「キリスト教主義」、「国際主義」、「リベラル・アーツ」を教育理念としています。この3つの理念をベースに、良心を持って知識・

能力を運用し、社会の礎となって活躍する自立した女性を育むことをめざしています。

具体的には、専門分野の知識や技術の修得だけでなく、専門以外の学問も学ぶことで広い視野を養い、物事の本質をとらえる力を身に付け、豊かな社会づくりに貢献できる女性を育てていきます。

——女子塾の設立にかかわった新島八重はまさに、良心に基づいて行動し、社会の礎となって活躍する自立した女性でした。

新島八重は、「生きるべき道を自らの力で切り開き、迷うことなくその道を歩む」という信念を持っていました。夫の襄を亡くした後、八重は日清戦争・日露戦争に篤志看護婦として従軍し、傷病兵の看護にあたりました。自己の利益だけにとらわれず、主体的に他者への愛を実践できる女性でした。こうした八重の行動は、社会における「地の塩、世の光」となる女性を育てるといふ、同志社女子大学の教育理念の1つ「キリスト教主義」に通じます。

2011年度から発信している新しいメッセージ「Always rising to a new challenge いつの時代も、新しきを生きる。」は、建学にあたっての新島襄の思いや、ハンサム・ウーマンと呼ばれた新島八重の生き方を強くイメージしたものです。「時代の変化に対応しながらも、個性を磨き、輝かせる女性であれ」という思いを込めると共に、同志社女子大学ならではの「伝統と革新」

を感じさせる言葉で表現しました。

——2012年2月に、女子大学の「将来構想に向けた方針・方策」を公表されました。

建学以来受け継いできた教育理念を継承しながら、社会の変化にどのように対応し、どのような女性を育てるかという観点から、今後5年間(2012～2016年度)の活動方針・方策と、それを実現するための目標と具体的な取り組みを定めました。

今後5年間は「リベラル・アーツ」、「社会」、「女性・女子大学」の3つをキーワードにします。具体的には、これからの時代にふさわしい形に「リベラル・アーツ教育」をデザインし直し、社会とのつながりを意識した教育を行います。そして、同志社女子大学にしかできない教育、女性に必要な教育を確立します。

こうした3つのキーワードを基にして、「同志社女子大学型知性の構築」、「『志』の実現を支援する体制の構築」、「21世紀を生きる女性を育む『ホーム』を作る」という3つの方針と、「安定した財政基盤の確保」、「大学の組織力の強化」、「教職員の意識改革」という3つの方策を定めました。

これらの方針と方策を実現するため、「理念」「教育・学生支援」「研究」「施設・設備」など7つの分野について、具体的な目標を作成しました。今後、各部門で取り組みのスケジュールを作り、全学を挙げて実現に向けて行動していきます。

同志社女子大学

創立135周年を迎え、シンポジウムや記念礼拝などを実施

同志社女子大学の前身「女子塾」(京都ホーム)は、1876年(明治9年)10月24日に開設されました。その場所は京都御苑内にある現在の京都迎賓館の位置にあたります。アメリカ人宣教師A.J.スタークウェザーと新島襄の妻・八重によって開かれたこの女子塾は、生徒12名でスタートしました。同志社女子大学は、この日を基準として創立年を定めています。

大阪・松下IMPホールで記念シンポジウム

創立135周年の記念イベントとして2011年10月16日に松下IMPホール(大阪・中央区)で、「Always rising to a new challenge いつの時代も、新しきを生きる。」をメインテー



マにした「同志社女子大学創立135年記念シンポジウム」を開催しました。

シンポジウムは加賀裕郎学長のあいさつで始まり、第1部ではピアニスト・辻井伸行氏の母である辻井いつ子氏に、「自分らしく生きる～未来の扉をひらくのはあなた～」と題した基調講演をしていただきました。辻井氏からは、「常にポジティブであること」「前例がないなら、前例になろう」といった素晴らしいメッセージをいただきました。

第2部は、辻井氏と同志社女子大学OGのフリーアナウンサー・森夏子氏、現代社会学部現代子ども学科の上田信行教授によるトークセッション。「可能性は憧れによって鍛えられる—プレイフルな学びの実践—」をテーマにしたセッションでは、「Can I do it?」ではなく、「How can I do it?」と考えることの大切さを、約700名の来場者と共に共有しました。

EVEに合わせて記念礼拝などを開催

2011年11月18日には、今出川キャンパス

栄光館のフェウラーチャペルで、創立記念礼拝を行いました。EVE(大学祭)の開催礼拝でもあるこの創立記念礼拝には、在校生や卒業



生、教職員など約420名が出席。日本基督教団同志社教会牧師の望月修治先生をお迎えし、「魂の声を聞く」と題したりべラル・アーツの真髄に触れるご奨励をいただきました。

また、同日から同志社女子大学史料室では創立135周年にちなみ、135点の史料を紹介する企画展「同志社女子大学135ものがたり」を開催しています(2012年7月31日まで)。12月7日に開催した関連の公開講演会では、現代社会学部社会システム学科の山田邦和教授が、「京都の近代化と同志社」をテーマに話しました。

同志社香里中学校・高等学校

創立60周年記念事業、未来を担うキャンパス環境を整備

同志社創立者の新島襄は当初、大阪にキリスト教主義の学校を設立することを計画していました。しかし、当時の大阪府から理解を得ることができず、新島の願いはかないませんでした。

新島の思いを継ぎ、大阪の地に開校した同志社香里中学校・高等学校は2011年に、創立60周年を迎えました。記念事業として、生徒が安心して充実した学園生活を送るための環境整備を進めています。具体的には(1)新校舎(新普通教室棟と特別教室棟)の建設、(2)第一体育館・有朋館の耐震補強・改修工事、(3)興文館における情報教室の整備、(4)第2グラウンド・多目的グラウンドの整備・人工芝化、(5)香真館の空調設備設置、などに取り組んでいます。このうち中心になるのが、2つの校舎の新設です。

新普通教室棟(地上4階建て)には、高校のホームルーム教室や多様なカリキュラムに対応できる多目的教室などを設け、特別教室

棟(地下1階、地上3階建て)には、理科・芸術・技術家庭などの講義室や実験室、研究室を設けます。

特別教室棟、2011年4月に使用開始

特別教室棟は2010年4月に工事を開始。2011年3月に完成し、4月から授業などで使用しています。興文館と讃光館の間に位置する特別教室棟は煉瓦調のタイルで装い、既存のくすのきを残しています。学内の新たな景観を形成し、新しい同志社香里への期待を膨らませる建物になっています。

2012年7月の完成めざす新普通教室棟

2011年4月には、新普通教室棟の建設に着手しました。まず、明誠館と新明誠館を解体し、その跡地に新普通教室棟を建設中で、2012年7月の完成を予定しています。

また、1964年に建設された第一体育館は、旧耐震基準で設計・施工されているため、60

周年記念事業の一貫として耐震安全性を高める工事に着手し、2010年12月に工事を完了しました。有朋館の耐震補強・改修工事も、2011年9月に完了しています。

私学を取り巻く環境がますます激しさを増す中、私たちは同志社香里の良き伝統を次代に伝え、新しい時代が求める優秀で良心に満ち溢れた人材を育成するため、皆様のご理解とご協力を賜りながら、創立60周年事業の完遂に向けて、今後も全力で取り組んでまいります。



新キャンパスの完成予想図

ハイライト ① 教育

大学院改革で世界をリードする研究者を育成 脳科学・薬学分野で、新たな研究科を4月に開設

日本の大学にはいま、社会のあらゆる分野でリーダー層として活躍できる博士人材を育てることが求められています。こうした状況を受けて同志社大学は、大学院の教育改革を進めています。(1) 博士課程と修士課程の目的を明確にする、(2) 大学院の5年一貫制を実現する、(3) 数値目標として、指導教員1人が3年間で1人の博士を育てる——などが柱になっています。

全学費相当額を奨学金として給付

こうした大学院教学改革の一環として、同志社大学は2012年4月から、大学院研究科の博士後期課程の学費を、実質的に無償化しました。大学院の活性化・高度化を担う優れた若手研究者を育てるのが目的で、日本の大学院では初めての試みになります。

無償化の対象になる学費は入学金(初年度のみ)、授業料、教育充実費、実験実習料です。これらの学費に相当する額を3年間、奨学金として給付します。専門職大学院の「司法研究科」と「ビジネス研究科」を除くすべての研究科において、博士後期課程の入学時に34歳未満の学生が、給付の対象になります。

ただし、前期と後期を区別しない5年一貫制の「脳科学研究科」は、入学1年

目から5年間、奨学金を給付します。給付の対象になるのは、入学時に32歳未満の学生(転入学時は34歳未満)です。

最先端の脳科学を体系的に学ぶ

その脳科学研究科(発達加齢脳専攻)は2012年4月に、学研都市キャンパスに開設されました。脳の働きは、人間の存在の根幹です。その仕組みを解明することは、神経・精神疾患の予防や治療、子供の教育方法の改善などにつながります。

これまで日本の脳科学教育は、医学・薬学・理学・工学系の学部・大学院で、分散的に実施されてきました。これに対して脳科学研究科は生理学や形態学、分子生物学を中心として、人文科学も含めた幅広い学問領域をカバーし、最先端の脳科学を系統的に学べる体制を整えています。5年一貫制のため修士の学位は出さず、博士(理学)の学位を授与します。

その組織は「分子細胞脳科学」と「システム脳科学」、「病態脳科学」の3分野に分かれており、合計8部門で構成されています。10名の入学定員に対して、8名の専任教員と12名の特定任用研究員が、横断的な体制で指導にあたります。8名の専任教員はいずれも、

脳科学研究の第一線で国際的に活躍している研究者です。

日々の授業では実験を中心とする構成でチュートリアル方式を採用し、教材は基本的にすべて英文で、英語による討論・発表訓練を行います。また、学生は必要に応じて他の部門と共同研究をすることができます。この「研究のオーバラップ」も、脳科学研究科の大きな特長です。こうしたオーダーメイドの教育体制によって、次世代の脳科学研究をリードする研究者の育成をめざしています。

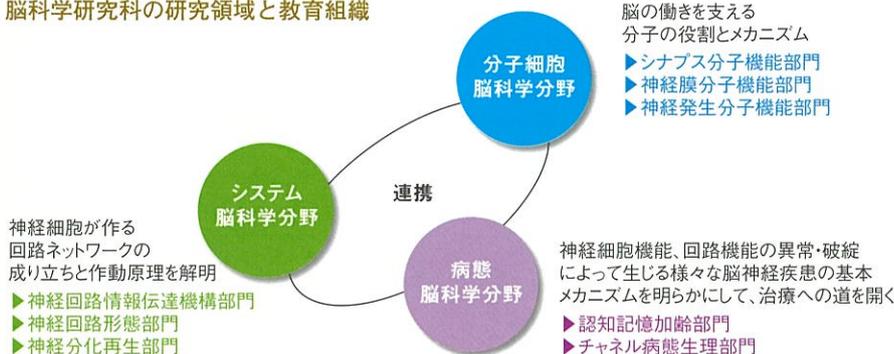
女子大学の薬学研究科も始動

同志社女子大学も、高度な専門分野の学びとリベラル・アーツの精神をベースにした、大学院教育の強化を進めています。現在、3研究科・6専攻を擁する大学院に2012年4月、「薬学研究科」が加わります。

薬学研究科(医療薬学専攻)は4年制の博士課程で、入学定員は4名。大学・研究所や医療機関、民間企業、地方自治体などで医療薬学の発展に貢献できる優れた研究能力を有する高度専門的職業人と、その人材を育てる指導者の養成をめざしています。そのため医療現場で働く薬剤師も、社会人学生として積極的に受け入れます。

また、社会人学生が安心して研究活動に取り組めるように、「長期履修学生制度」という支援制度を導入しています。例えば薬学研究科の場合、入学試験出願時に申請すれば、仕事と研究の両立が難しいといった理由で、4年間で教育課程を修了できない学生に対して、最長8年かけて学位を取れるようにしています。

脳科学研究科の研究領域と教育組織



ハイライト ② 研究

「研究大学」としてのステータス確立をめざし、 大学、女子大学で革新的な研究成果が相次ぐ

世界に通用する「研究大学」としてのステータス確立をめざす同志社大学と同志社女子大学では2011年度に、革新的な研究成果が相次ぎました。

環境に優しいレアメタルの製造法

同志社大学理工学部の盛満正嗣教授は、レアメタルとベースメタルの画期的な製造方法「電解採取法」を開発しました。米 Republic Alternative Technologies社へ特許を実施許諾し、その事業化を行っています。2011年9月20日に開催した事業化開始の記者発表会には、Republic社CEOのMartin Zanotti氏にも出席いただきました。

盛満教授の製造方法を使うと、二次電池や電気自動車に不可欠のCo(コバルト)やNi(ニッケル)などのレアメタルや、電池・モーターなどに使われているZn(亜鉛)やCu(銅)などのベースメタルを作る際に、消費電力量を最大で30%も削減できます。従来の製造方法では対応が難しかったスラッジ(金属汚泥)の発生量を減らすこともできます。

盛満教授が開発した技術は、レアメタルやベースメタルを製造する際の使用電力量(CO₂発生量)と有害物質の排出量を大幅に削減できる、環境に優しい製造方法なのです。

アルツハイマーの原因物質を特定

医学・ライフサイエンス分野では、同志社大学生命医科学部の井原康夫教授と舟本聡准教授が、理化学研究所や滋賀医科大学、ベルギーのアントワープ大学との共同研究で、アルツハイマー病の進行を早める物質の特定に成功しました。病気の仕組み解明や新しい治療薬、予防法などの開発につながる成果といえます。

睡眠障害のリスク低減に貢献

同志社女子大学でも、医学・ライフサイエンス分野で革新的な研究成果が得られました。同志社女子大学薬学部の小西天二教授は琉球大学、株式会社クレイ沖縄などと共同で、高い睡眠誘発効果が認められている「オキシピナタニン」を、沖縄に自生する野草「クワンソウ」から安定的に大量抽出することに、世界で初めて成功しました。

オキシピナタニンが、クワンソウに大量に含まれていることは既に発見していましたが、安定的に抽出するのが極めて困難でした。今回の研究は、経済産業省の「地域イノベーション創出開発事業」(2009・2010年度)と沖縄県の「地域ネットワークを活用した健康バイオ新商品開発推進事業」(2011年度)の一環で行われたものです。

大量抽出したオキシピナタニンの機能解析を行うと、睡眠誘発効果が高く、睡眠中に異常な脳波を示すことがないなど、自然な睡眠を誘発する物質であることが分かりました。財団法人食品薬品安全センターの試験でも、安全性に問題がないことが確認されています。現代人の睡眠障害の解決に役立つ今回の研究成果を活用して、オキシピナタニン入り睡眠誘発サプリメントを、クレイ沖縄が商品化しています。

また、日立製作所とベネッセコーポレーションは2011年8月1日に、学習



オキシピナタニンが大量に含まれるクワンソウ

内容に応じて6種類の光を選択できる学習スタンド「調光式学びライトLED」を発売しました。この商品には、色温度と照度が人の認知機能に与える影響に関する、同志社大学生命医科学部の廣安知之教授と日立製作所の共同研究の成果が生かされています。

陸上長距離の効果的な練習方法

同志社らしいユニークな研究もあります。同志社大学スポーツ健康科学部の石井好二郎教授などの研究チームは2011年に、陸上長距離ランナーの効果的な練習方法を編み出す研究を開始しました。

研究チームは日本陸上競技連盟の科学委員を務める石井教授や、大阪体育大学と兵庫教育大学の准教授・大学院生の合計13名で組織。高校駅伝の強豪・広島県立世羅高等学校の協力を受けて、陸上部員の身体データを測定し、日本人に適した練習方法などの開発を進めています。



9月20日に開催した記者会見



脳科学の知見を活用した学習スタンド

同志社フェアを函館で初開催、全国で学校説明会

同志社大学と同志社女子大学は、学園のいまを在学生の保護者や受験生、卒業生などに知っていただくため、全国規模で学校説明会を行っています。

その一環として同志社大学は2011年6月12～14日、函館市（新島襄脱国の地）で「同志社フェアin函館」を開催しました。初日の卒業生との集いでは、八田英二大学長から教育改革についての話があり、ラグビー元日本代表・大八木淳史氏の講演や、函館水産高校の生徒による寸劇「新島襄が米国に脱国する日の夜」が行われました。2日目に

は新島襄の足跡をたどるツアーが、3日目には「新島襄海外渡航の地碑」碑前祭が行われました。

10月から11月には、仙台・福井・東京・鹿児島・静岡・山形・広島の全国7カ所で「同志社大学キャンパスフェスタ」が開かれ、元吉本興業常務取締役の木村政雄氏やプロ野球・楽天イーグルス初代監督の田尾安志氏などOBの方の講演が行われました。

同志社女子大学でも6月から7月にかけて、浜松・横浜・高松・福岡の全国4カ所で、「同志社女子大学の集い

2011」を開催。加賀裕郎女子大学長による大学近況報告、教員による講演や保護者の方を対象にした就職説明会などが行われ、どの会場も大いに盛り上がりました。



同志社フェアin函館の会場

「同志社京田辺祭」の開催などで、地域連携を推進

2011年は、京田辺キャンパス開校25周年の記念の年でした。そこで同志社大学は11月5～6日、例年を上回る規模で「同志社京田辺祭（クローバー祭）2011」を開催しました。

「～京田辺から発信！参加型情報エンターテイメント～」をスローガンに掲げ、無料ライブや模擬店、子供向け企画など、多くの参加型イベントを開催しました。京都府主催の国民文化祭との共同企画や、今出川キャンパスで

11月6日に開催した「同志社大学ホームカミングデー2011」との連携も行いました。東日本大震災の復興支援のチャリティーや募金活動も行い、集まった義援金は祭りの学生スタッフが被災地に直接届けました。

地元以外の皆様との連携を強化するため、同志社大学は東京オフィスにおいて、社会人の方々の学ぶ意欲に応えるための「同志社講座 in Tokyo」を開催しました。

同志社女子大学でも、学生が主体となって地域連携の取り組みを行っています。現代こども学科では毎年、京田辺市内の小学生100名近くを招いて、キャンパス内で交流を楽しむ『こどバ』を開催。また、情報メディア学科の授業「eコマース研究」では、学生が仮想企業を設立し、京田辺市のきらら商店街と連携して、地域の活性化につながる子供向けや学生同士が交流するイベントを開催しました。

「グローバル30」の着実な成果、2013年度に新たな学部

2009年度に文部科学省事業である国際化拠点整備事業（グローバル30）に採択され、国際連携推進を積極的に推し進めています。2011年夏には、2年間の事業実施結果に関する中間評価が行われ、採択13大学で唯一、S評価を受けました。目標数を大きく上回る数の留学生を受け入れたこと、英語による授業のみで学位が取得できる新設プログラムの充実や、AKPなど米国有力大学のスタディアブロードセン

ターとの長期にわたる交流実績などが、高く評価されました。

今後、補助事業終了時の2013年度までに留学生のさらなる受け入れ、本学学生のさらなる海外派遣を進め、最終的には2020年に留学生3,500名、派遣留学生1,055名を目標値としています。採択以降3年間の事業実施実績を基盤として、世界中から学生や研究者を受け入れ交流の場を提供すると共に、世界中に研究者や学生を派遣する「知の

国際化拠点」をめざしています。

2011年度設置のグローバル・コミュニケーション学部と同様、在学中に一度は留学することを義務付ける「グローバル地域文化学部」を2013年に開設する準備も着々と進行しています。このようにグローバル30採択を契機として、教育理念である「国際主義」を実質化し、グローバル社会で活躍する良心を持った「グローバル人材」を輩出する計画は着実に進んでいます。

ハイライト ⑥ 環境問題への取り組み

約11%の節電に成功、世界学生環境サミットに参加

東日本大震災の影響で2011年夏以降、日本全国で電力需要が逼迫し、企業や家庭では大幅な節電を迫られました。こうした状況を受けて同志社大学も2011年7月から、本格的な節電対策に取り組みました。

例えば、教室内の最も暑い場所が28℃になるように設定していたエアコンの設定温度を、7月以降は28℃に固定しました。また、図書館のエアコンを1時間のうち15分間停止したり、人が入ると自動的に照明が点灯するシステムをトイレに導入したりするなど、

建物ごとに節電を徹底しました。その結果、今出川・京田辺両校地の7月と8月の使用電力量は、2010年に比べて約11%削減できました。

一方、地球規模の環境保護問題にも積極的に取り組みました。例えば、同志社大学が主導して2008年から毎年行っている「世界学生環境サミット」。2011年5月17～21日にスウェーデンのブレーキング工科大学で開催された第4回大会には、同志社大学から3名の学生が参加し、世界25カ国・48大学の学生65名と、真剣な議論を繰り広

げました。

また、サミットのクロージング・セレモニーでは、本部事務局である同志社大学の八田英二学長が挨拶し、参加者全員に修了証を手渡しました。



第4回「世界学生環境サミット」

ハイライト ⑦ 寄付事業への取り組み

「立石ファンド」を活用し、中高生の英語力を強化

理事の立石信雄氏から、法人内各中学校・高等学校の英語力強化のために多額のご寄付の申し出があり、2011年5月28日に今出川校地の有終館で、「立石ファンド寄付金贈呈式」を行いました。

学校法人同志社は立石ファンドの活用により、立石スカラーの派遣・受け入れをはじめとする特色ある国際主義教育を展開し、英語能力の向上を図ると共に、国際感覚が豊かで国際社会に

貢献できる生徒を育成する取り組みを進めています。その一環として2012年2月19日に、「第1回 同志社中学生・高校生英語大会—立石杯—」を、神学館礼拝堂で開催しました。

第1回立石杯には、中学生2部門と高校生2部門に合わせて24名が出場。日ごろの練習の成果を発揮し、白熱したスピーチを繰り広げました。当日は150名を超える来場者があり、中高生のスピーチに魅了されていました。栄

えある最優秀賞（立石杯）は、同志社国際高等学校3年生の森川綾子さんが受賞しました。



第1回同志社中学生・高校生英語大会—立石杯—

【東日本大震災・復興支援への取り組み】

在学生、受験生に経済的な支援、心のケアなどにも取り組む

同志社大学と同志社女子大学は大震災発生直後から、被災地の復旧・復興に向けた様々な支援を行ってきました。被災地出身の在学生や受験生に対する手厚い経済的な支援も、その一例です。

例えば災害救助法適用地域において被災され学費支弁が困難となった在学生に対して、2011年度の学費を全額減免する特別措置を実施すると共に、新入生については、入学金も全額免除しました。また、同地域出身の受験生に対しては、入学試験の受験料を全額免除しました。両大学では、2012年度も継続して経済的な支援を行っています。

また同志社大学は、被災者の「心のケア」にも取り組みました。2011年4月3日に、心理学部・心理臨床センターの主催で、「震災復興支援チャリティ・ワークショップ」を開催しました。この緊急企画では、震災後に生じる可能性がある精神疾患に対する科学的な心理ケアの方法が報告されました。

キリスト教文化センターでは、2011年6月25日に、いまでも苦しみの中にある被災地を心に覚え、東日本大震災復興支援をテーマとした「チャペル・コンサート」を開催しました。それぞれの催しにおいて寄せられた義援金は復興支援のため被災地へ寄付されました。

2011年9月4日には、東京・丸ビルホールで「震災からの復興に必要な力～未来を切り拓く人材を育てる～」をテーマにした「関西4大学学長フォーラム」が開催されました。4学長によるパネル討論で八田英二学長は、「想定外の事態になっても、自ら判断できる人材を育てたい」と強調しました。

また今年のホームカミングデーでは、卒業生委員からの提案もあり、「卒業生一人ひとりの良心を形にして届けたい」という呼びかけのもと、当日を中心に卒業生個人・団体から被災された在学生の修学支援のために義援金が募られました。

Doshisha University

同志社大学

「建学の精神」に立脚した改革に邁進 社会の期待に応える取り組みを加速



■ DATA	■ 創立	1875年
	■ 所在地	〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601 TEL : 075-251-3110 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL : 0774-65-7010
	■ URL	http://www.doshisha.ac.jp/

私立大学を取り巻く環境が激しさを増す中、同志社大学は特色ある私立大学であり続けるために2011年度も、総合学園としての長を生かした教学や研究などの充実を図り、社会の期待に応える様々な取り組みを行いました。

国際主義の推進をめざして 新たな教育組織を相次ぎ新設

教学面では、「国際主義」をさらに推進し、グローバル社会で活躍できる人材を育てるため2011年4月に、「グローバル・コミュニケーション学部」(GC)を京田辺校地に、「国際教育インスティテュート」(ILA)を今出川校地に、それぞれ開設しました。このうちILAは、文系6学部を横断するこれまでにない教育組織です。

また、新しい学部「グローバル地域文化学部」(届出手続中・収容定員増加

の認可申請中)を、今出川校地に開設することを学内決定しました。2013年4月の開設を予定しています。現在のグローバルな問題の多くは、地域間の問題が原因になっています。そこでグローバル地域文化学部ではヨーロッパ、アジア・太平洋、アメリカの3コースにおいて地域の文化・歴史・社会を学び、地域を横断して起こる現象や各地域内で現れるグローバルな現象について学びます。グローバルな観点から地域を学ぶことで、現代社会が直面する問題を見定め、その解決法を考えます。

着実に進む国際化の取り組み 留学生対象の新奨学金制度を導入

文部科学省の採択事業「国際化拠点整備事業」(グローバル30)に関連する取り組みも、着実に進んでいます。同事業は2011年度に、「大学の国際化の

ためのネットワーク形成推進事業」として組み直されました。

国際的な教育研究拠点としてのハード面・ソフト面のより一層の充実を図るため2011年度は、留学生・客員教員宿舎の確保や、外国人留学生を対象とした新たな奨学金制度の導入を行いました。新たな奨学金制度の「渡日前奨学金制度」は、従来の「特別奨学金制度」と「授業料減免制度」、「学習奨励金制度」を一本化したものです。この新制度によって、すべての外国人留学生の授業料負担が、20~100%軽減されることになりました。

こうしたグローバル30に関する同志社大学の取り組みは2012年3月9日に文部科学省から、「Sランク」(優れた取り組み状況で、事業目的の達成が見込まれる)の評価を受けました。

研究体制を見直して 研究力をより一層強化

研究面では、国公私立大学を通じた競争的環境のもと、研究拠点形成、国際共同研究、産学連携事業などに意欲的に取り組んでいます。2011年度に採択された大型のプロジェクトは日本学術振興会の「研究拠点形成事業」、「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」、文部科学省の「脳科学研究戦略推進プログラム」です。

「研究拠点形成事業」は先端的・国際的に重要な研究課題について、世界的水準の研究交流拠点を構築し、次世代を担う若手研究者の育成をめざすものです。本学では脳科学研究科を中心とする「神経シナプスナノ生理学拠点の構築」が採択され、日本・ドイツ・フランス・イギリスの研究者間で共同研究やセミナーなどを行います。「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」では、一神教学際研究センターの「多文化共生時代における一神教コミュニティ間の相互作用と

対話」が採択され、2012年2月に国際シンポジウムを開催しました。「脳科学研究戦略推進プログラム」では、脳老化に関する研究領域で「抗タウオパチー薬の創出」が採択されました。

なお、科学研究費助成事業では238件、研究費約5億4,000万円、戦略的創造研究推進事業では7件、研究費約1億3,000万円が採択されています。

これらの研究活動を支える研究開発推進機構では、研究面の世界展開に向けて、基盤的制度や体制の充実を図っています。2011年度は個人研究の支援として、個人研究奨励費制度の見直し、科研費申請補助員制度の創設を行い、科研費をはじめとする競争的資金の獲得体制を強化しました。共同研究についても、新たに研究環境充実費を設けて研究センターの設置を促進し、学部・研究科の特性を生かした共同研究や学部横断的な共同研究の実施、新たな研究領域・研究課題の創成を進めています。さらに大型研究拠点形成に向けて、本学独自の研究拠点形成支援事業（予算額 年間4,000万円、事業期間5年間）を設けました。研究面でも国際的に通用する大学をめざします。

両校地の位置付けを明確化 キャンパス整備事業

施設面の取り組みでは、文系全学部の拠点を今出川校地に集約するため、今出川・烏丸キャンパスで新棟（良心館と志高館）の建設を進めています。2012年10月にすべての新築工事が終わる予定です。今出川キャンパスの新棟は延床面積が4万㎡を超え、日本の大学では最大級のラーニング・コモンズを整備します。

文系全学部の集約後は、今出川校地と京田辺校地の位置付けを明確化します。今出川校地は「リベラル・アーツ型教養教育」、「ゼミナールを中心とした専門教育を展開する文系学部の教

育拠点」、「専門職大学院や独立研究科等を中心とする高度専門職業人養成の拠点」といった位置付けになります。一方、京田辺校地は「実験・実習、フィールドワークを重視する複合的教育拠点」、「身体・生命、先端技術、情報に関する国際的先端研究拠点」と位置付けます。

社会との接点を重視 地域に貢献する取り組み

同志社大学は地元と連携・協力して、様々な地域連携活動・行事を行っています。「同志社京田辺祭2011」や「同志社講座 in Tokyo」のほかに2011年度には、「自然科学から見た歴史」をテーマにした「同志社大学講座」を、5月から11月にかけて6回開催しました。

同志社大学キリスト教文化センターが2回開催した、「オープン・プログラム公開講演会」も好評でした。

入学定員充足率は1.05倍 安定した大学運営を継続

2012年度入学者の入試実績は、一般選抜入試の志願者が3万9,867名（前年度比3.4%の増加）、センター試験利用入試の志願者が1万1,210名（同12.6%の増加）でした。2012年度の入学定員充足率は1.05倍となり、学生生徒等納付金の増加によって、安定した大学運営が見込めます。

同志社大学は今後も、建学の精神と教育理念に立脚した取り組みを積極的に行い、世界に通用する有益な人材の育成に努めてまいります。

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数（2011年5月1日現在）

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部				
神学部	60	80	230	303
文学部	670	751	2,692	3,145
社会学部	400	474	1,565	1,955
法学部	850	893	3,355	3,893
経済学部	850	852	3,355	3,862
商学部	850	939	3,355	3,773
政策学部	400	446	1,575	1,699
文化情報学部	280	298	1,090	1,228
理工学部	730	926	2,920	3,754
生命医科学部	240	282	960	1,049
スポーツ健康科学部	150	165	600	661
心理学部	150	166	450	475
グローバル・コミュニケーション学部	150	140	150	140
合計	5,780	6,412	22,297	25,937
研究科				
神学研究科	25	27	55	90
文学研究科	77	48	171	174
社会学研究科	53	40	122	114
法学研究科	145	69	305	183
経済学研究科	55	11	115	25
商学研究科	70	40	145	72
総合政策科学研究科	95	70	215	261
文化情報学研究科	32	30	66	58
工学研究科	298	445	609	872
生命医科学研究科	22	59	46	112
スポーツ健康科学研究科	8	4	16	11
心理学研究科	14	17	32	36
アメリカ研究科	—	—	10	17
グローバル・スタディーズ研究科	63	48	126	84
司法研究科	120	93	390	254
ビジネス研究科	70	47	140	128
合計	1,147	1,048	2,563	2,491
総計	6,927	7,460	24,860	28,428

教員数、職員数（2011年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
766	1,303	2,069	332	101	433	2,502

同志社(法人) 2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	「同志社国際学院(初等部・国際部)」開校	開校：初等部2011年4月、国際部2011年9月 設置場所：木津川市 開校初年度の入学者として、初等部3学年、国際部12学年を受け入れ(初等部 定員180名、国際部 定員120名)
教育・研究	中高の国際化推進プログラムの実施	立石信雄氏(オムロン株式会社特別顧問)からの寄付金により、特色ある国際主義教育を展開し、国際社会に貢献できる生徒の育成を目的としたプログラムを実施
	第29回「東京新島講座」開催(10月15日)	講師：水谷誠(神学部教授) 講演：「受けるよりは与えるほうが幸いである：新島襄のキリスト教」 講師：村山裕三(ビジネス研究科教授) 講演：「京都の伝統産業の活性化：同志社ビジネススクールの試み」
	第34回「新島講座」開催(12月20日)	講師：John L. ESPOSITO(ジョージタウン大学特別教授) 講演：「地球規模的政治における宗教の役割と未来」 公開セミナー：「アメリカ政治における宗教の役割」
	第16回「同志社国際主義教育講演会」開催	講師：猪木武徳(国際日本文化研究センター所長) 講演：「大学と人文学教育」
財政	立石ファンドの創設	立石信雄氏(理事)から寄付金を受け入れ
	格付けの更新	2011年5月、R&I(格付投資情報センター)が発行体格付けAA+(ダブル・エー・プラス)の維持を発表
その他	「文部科学省の医学部入学定員検討会に係る情報収集プロジェクトチーム」発足	医学部新設に関わる情報の収集、調査、分析を行う
	会津若松市との連携協力に関する包括協定調印	教育・観光・文化・まちづくり等の分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材交流に寄与
	第16回「国際交流に関するエッセイコンテスト」表彰	応募：日本語部門16点(大学生の部5点、高校生の部5点、中学生の部6点)、英語部門66点(大学生の部2点、高校生の部39点、中学生の部25点) 表彰：最優秀賞5点、優秀賞10点、佳作9点
	第169回「新島襄生誕記念会」開催	新島研究論文賞：布施田哲也 新島研究功績賞：大鉢忠 新島生誕記念懸賞論文表彰：最優秀賞2名、優秀賞4名、佳作10名
	2011年度「同志社総長賞」表彰	個人6名と1団体(4名)
	同志社合同学校説明会の実施	幼稚園・小学校・中学校・高等学校合同の学校説明会を開催(2011年7月31日)大学オープンキャンパス同時開催

同志社大学2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	「グローバル・コミュニケーション学部」設置	入学定員：グローバル・コミュニケーション学科150名(英語コース80名、中国語コース40名、日本語コース30名)
	「国際教育インスティテュート」設置	コース定員：国際教養コース50名、国際専修コース150名
	「留学生別科」定員変更	入学定員変更：()は変更前。入学定員250名(130名)
	社会学研究科「教育学専攻」を「教育文化学専攻」へ名称変更	
教職員採用	教員・職員	専任教員29名、任期付教員42名、専任職員17名
	研究支援員制度	学外資金により雇用される専門的知識・技術・経験等を必要とする特定の研究支援業務に従事
教育・研究	「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」	チュービンゲン大学Japan Days、NAFSA 2011 Annual Conference、EAIE2011 Annual Conference、The Student World Fair、ソウル事務所開所式(6/18入試説明会、学校相談会)、学術交流協定校への教員の派遣、文書の英文文化促進、海外指定校推薦入学合格者父母対象の父母懇談会の実施(ソウル)
	「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」	「多文化共生時代における一神教コミュニティ間の相互作用と対話」が採択
	「アジア・太平洋地域等における開発途上国の教育、科学又は文化の普及・発展のための交流・協力事業」	「政府開発援助ユネスコ活動費補助」が採択
	研究センターの開設	「イノベティブコンピューティング研究センター」、「モビリティ研究センター」、「ニューロセンシング・バイオナビゲーション研究センター」、「国際ビジネス法務研究センター」、「実証に基づく心理トリートメント研究センター」
	寄付教育研究プロジェクトの開設(研究センター)	「糖化ストレス研究センター」
	寄付教育研究プロジェクトの開設(寄付講座)	「京都市市民生活センター寄付講座(複合領域科目2 消費者問題入門)」、「読売新聞寄付講座(特殊講義メディアから現代社会を読む)」、「坂田記念ジャーナリズム振興財団寄付講座(現代メディア・ジャーナリズム論)」、「近畿税理士会寄付講座(特殊講義 現代社会と税制(3))」、「博報堂DYメディアパートナーズ寄付講座(スポーツ・トピックス1 スポーツビジネスはいかに行われるか)」、「連合寄付講座(働くということー現代の労働組合ー)」、「同志社会計人会寄付講座(会計情報と組織運営)」、「医療法人石鏡会田辺中央病院寄付講座(スポーツ・トピックス2 スポーツと健康の関係を探る)」、「大学生協京滋・奈良地域センター寄付講座(複合領域科目2 食文化と健康)」、「ミネルヴァ書房寄付講座(文化史特論(6))」
	他大学・研究機関などとの交流協定、包括協定、学生交換協定の実施(大学間)	イースタン・フィンランド大学(フィンランド)、ニューオリンズ大学、ウェスタン・ミシガン大学、ノースカロライナ大学シャーロット校、ミズーリ大学(アメリカ)、大連外国語学院(中国)、ルツェルン大学(スイス)、オーフス大学(デンマーク)、ストラスブール大学、フランス社会科学高等研究院、パリ第13大学、パリ国立高等鉱業学校、リヨン政治学院(フランス)、パヤップ大学(タイ)、ベルゲン大学(ノルウェー)、デュッセルドルフ大学(ドイツ)
	他大学・研究機関などとの交流協定の実施(学部・研究科間など)	文化情報学部と高麗大学(韓国)政経学部統計学科、中国人民大学統計学院・北京数学科学学院(中国)、グローバル・スタディーズ研究科と国立西マレーシア大学、国立マレーシア国際問題大学院、国際イスラーム学高等研究所、マレーシア女性・家族・コミュニティ開発省(マレーシア)、タイ国立Prince of Songkla大学、タイ国立チュラロンコン大学(タイ)、キルギス国立民族大学、マナース大学(キルギス)、フライブルク大学院、ベルリンTransnationalStudies大学院(ドイツ)、ILA海外指定校推薦依頼高校
	留学生別科海外指定校推薦入学に係る協定締結(日本語・日本文化教育センター/留学生別科との学部間)	中国：7校、韓国：4校
	「脳科学研究戦略推進プログラム」の実施機関等の決定	研究課題名：抗タウオパチー薬の創出 代表研究者：井原康夫(生命医科学部)
	「再生医療の実現化プロジェクト 再生医療の実現化ハイウェイ」	「培養ヒト角膜内皮細胞移植による角膜内皮再生医療の実現化」が採択(分担機関)
	連携大学院方式による教育・研究に関する協定書等締結	理工学研究科と「兵庫県立工業技術センター」、「株式会社東洋設計事務所都市環境技術研究所」、大学と「西日本旅客鉄道株式会社鉄道本部技術本部」
	大学発グリーンイノベーション創出事業「グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス(GRENE)」事業先進環境材料分野	「グリーントライボ・イノベーション・ネットワーク」が採択(参画機関)
	情報環境の整備充実	遠隔講義システム更新、AV教卓改修、動画配信サーバの増強とコンテンツ管理システムの拡充など

教育・研究	司法研究科の教育支援	アカデミック・アドバイザー、特別授業等実施、判例・法令・法律雑誌データベース契約の継続、国際法務教育プログラム実施など	
	国連グローバル・コンパクトへの加盟	国際連携の強化	
	U.S.-Japan Research Institute (USJI) へ加入	研究成果のアメリカにおける発信	
入試	学部外国人留学生入試	韓国・ソウル会場において学部独自入試を実施(面接はSkypeで本学と接続して実施)	
	留学生別科海外入試	北京・上海(中国)	
	留学生別科への海外指定校推薦入学の実施	西北大学外国語学院、大連外国語学院日本語学院/ソフトウェア学院、青島農業大学外国語学院日本語学科、西安外国語大学東方語言文化学院、浙江工商大学日本語学院、長沙学院外国語学院日本語系、湖南大学(中国)、大林大学校、培花女子大学校、同徳女子大学校、ソウル神学大学校(韓国)	
	海外指定校推薦入学面接の実施	韓国(ソウル・釜山)、中国(上海・天津)	
	留学説明会	ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ(インドネシア)、ソウル、東豆川(韓国)、ロンドン、サリー(イギリス)	
	日本留学フェア	高雄・台北(台湾)、チェンマイ・バンコク(タイ)、北京・上海(中国)、ソウル・釜山(韓国)、ジャカルタ(インドネシア)、ハノイ・ホーチミン(ベトナム)、デリー(インド)、マニラ(フィリピン)、クアラルンプール(マレーシア)	
	ILA主催 留学フェア 高校訪問 説明会	フィリピン、シンガポール、カナダ、トルコ、イギリス(JAPAN DAY)	
	上海日本人学校高等部卒業予定者の受け入れ	大学推薦入学枠設定	
	「キリスト教主義学校の連携ネットワーク協定校」の追加	既に協定を結んでいる5校に加え、東北学院高等学校、広島女学院高等学校と新たに教育連携協定を締結し、推薦入学制度などを設ける	
	学生支援	東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置の実施	受験生：入学検定料を全額免除 新入学生・在學生：春学期・秋学期学費を全額免除
豪雨、台風による学費等減免措置の実施		災害救助法適用地域被災者に該当する受験生、在學生に対して減免を実施	
博士後期課程若手研究者育成奨学金制定		博士学位取得をめざす入学時34歳未満の学生対象	
脳科学研究科特別奨学金制定		博士学位取得をめざす入学時32歳未満の学生対象	
私費外国人留学生授業料減免奨学金新設		学部生：授業料減免比率を50%、30%、20%に分類し、それぞれ留学生の30%、30%、40%に支給 大学院生：減免比率を、50%、30%に分類し、それぞれ留学生の30%、30%、40%に支給する。大学院生については、更に「特別奨学金」を導入し、授業料の全額相当額を、留学生の20%程度に支給	
課外プログラム		「自分発見のエコツアー in 白川郷」、「函館キャンプ」、「フレッシューズキャンプ」、「アッセンブリーアワー」、「WOT(ワット)」、「クローバーシアター」、「寒梅館夏まつり」、「CLAP」、「b(ぶらっと)プログラム」、「キャンパスコミュニティビルディングプロジェクト」	
体育会重点強化クラブ追加選定		Bランク指定2クラブ追加：アーチェリー部、準硬式野球部(参考：2010年度Aランク2クラブ、Bランク4クラブ選定)	
財政		第2号基本金組入	今出川校地整備資金20億円
		募金事業	今出川キャンパス新校舎建設資金募金、教育研究施設等整備資金募金、特定寄付奨学金募金、スポーツ活動充実資金募金など
		遺贈寄付(土地・建物)の受け入れ	国際交流進展への寄与
その他	世界学生環境サミット出席	プレーキング工科大学(スウェーデン)	
	「STAY IN KYOTO」プログラム	中国大學生訪問学生プログラム実施(ILA)	
	G30 Workshop @ Doshisha	英語でのプログラムを持つ大学を中心に、国内外から教職員が集い、ディスカッション・交流(ILA主催)	
	Doshisha Spirit Week 2011	同志社の歴史と建学の精神などをテーマに春秋実施：5/30～6/4、10/31～11/5	
	DOSHISHA Festa in 「SF Bay Area」及び「Los Angeles」	卒業生とのネットワーク強化	
	「グローバル地域文化学部」の開設準備	今出川校地において2013年4月に開設予定	
	「脳科学研究科」の開設準備	学研都市キャンパスにおいて2012年4月に開設	
	同志社キャンパスフェスタ開催	大学の今と未来を発信(仙台(10/1)、福井(10/8)、東京(10/10)、鹿児島(10/23)、静岡(10/29)、山形(11/19)、広島(11/26))	
	同志社フェアin函館	卒業生とのネットワーク強化(6/12～6/14)	
	新情報システムの構築	知的財産管理システム、統合運用管理システム	
	「八重桜プロジェクト」の立ち上げ	NHK大河ドラマ放映に伴い情報発信	
	パイプオルガンの設置	クラークチャペル(2011年9月)	
	新司法試験合格者数	65名(全国9位、西日本私立大学中1位)	
	東日本大震災に対する対応	学内宿泊施設開放、震災救済義援金(日本赤十字社、キリスト教学校教育同盟、福島県)	
	節電への取り組み	7/7～9/22の期間、今出川校地15%、京田辺校地6.46%の節電措置	
	「ホームカミングデー」開催	創立136周年記念Reunion、卒業生と在學生の交流機会を設け、同志社の「今」を体感できるプログラムや、家族で楽しんでいただけるプログラムなどを実施	
	「京田辺祭」の開催	学生・教職員・市民が一体となり、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成をめざし、「京田辺校地開校25周年記念」、「国民文化祭京都2011」との連携企画で開催	
「大阪サテライト・オフィス」移転	2/21～立地条件の改善、フロア面積の拡大など(梅田スクエアビルディング17階ワンフロア)		

同志社大学施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源	
今出川校地	今出川校地整備	今出川新棟建設、烏丸新棟建設・土壌汚染対策、既存建物改修、埋蔵文化財発掘調査、駐輪場整備、新会議棟設計など	2009～2012年度	本年度支払額58億円	学生生徒等納付金、寄付金、第2号基本金
	その他整備	徳照館昇降機更新	2011年度	1,400万円	学生生徒等納付金、寄付金
京田辺校地	香柏館・自然系実験実習棟整備	心理学部実験実習施設整備、香柏館低層棟トイレ増築	2011年度	3,500万円	学生生徒等納付金、寄付金
	その他整備	多目的ホール屋根外壁改修	2011年度	4,200万円	学生生徒等納付金、寄付金
		高圧ケーブル更新	2011年度	2,700万円	学生生徒等納付金、寄付金
		デイヴィス記念館昇降機更新	2011年度	1,000万円	学生生徒等納付金、寄付金
		デイヴィス記念館トレーニングルーム空調機新設	2011年度	1,600万円	学生生徒等納付金、寄付金
	創考館空調機増設	2011年度	180万円	学生生徒等納付金、寄付金	
その他	脳科学研究科整備	建物改修、設計、備品購入など	2011年度	2億4,700万円	学生生徒等納付金、寄付金
	学研都市キャンパス	快風館空調機更新	2011年度	2,000万円	学生生徒等納付金、寄付金
	多々羅キャンパス	空調機更新	2011年度	250万円	学生生徒等納付金、寄付金

同志社女子大学

将来構想に向けた方針・方策を打ち出し、 女子総合大学としてさらなる発展をめざす



- DATA**
- 創立 1876年
 - 所在地 〒610-0395 京都府京田辺市興戸南鉢立97-1
TEL : 0774-65-8411
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1
TEL : 075-251-4111
 - URL <http://www.dwc.doshisha.ac.jp/>

創立135年を迎えた同志社女子大学は良き伝統を受け継ぎ、様々な分野で積極的な取り組みを展開しました。将来構想に向けた今後5年間の方針・方策を打ち出し、リベラル・アーツを基本精神とした女子総合大学としてのさらなる発展をめざしています。

キャリア教育への取り組み 「DWCLA10」の制定

学生に卒業までに身に付けてもらいたい10の力「DWCLA10」が2011年度に制定されました（DWCLAは同志社女子大学の英語名称の略）。教育理念の1つであるリベラル・アーツ教育では、教養教育や専門教育に加え、どの分野の学問を専攻する場合にも、また社会のどの分野に進む場合にも必要とされる「学士としての基礎的・汎用的能力」の獲得が重視されてきています。

「DWCLA10」は、この「学士としての基礎的・汎用的能力」を具体的に表現したものです。情報や現状から課題を明らかにする「分析力」、論理的に自

ら考える「思考力」など10の「力」で構成されています。

2012年度からは、すべての授業科目のシラバスに「この授業で結果として獲得することが期待される力」として、「DWCLA10」のうち3つ以上の「力」が記載されます。ただし、これらの力はそれ自体を教えられるものでも、学ぶことができるものでもありません。教養と専門性の獲得の過程で結果として身に付いていくものです。

そのため「DWCLA10」は、学生には授業に真剣に取り組むことでその獲得を促し、教える側には学生がそのような力を獲得できる授業を展開することが重要であるということを示す役割を果たしています。

この取り組みは、ディプロマポリシーとも連動しており、自立した女性を育成するという目的にかなうものです。長期的視野に立った成果が、今後期待されます。

国際主義をさらに推進 多くの国際交流プログラムを実施

国際感覚豊かな人材を育てるため、多くの国際交流プログラムを展開しました。「中・長期協定留学制度」では、1年間の海外留学を義務付けている学芸学部国際教養学科生の留学を含め、協定大学への留学や認定留学により2011年度に海外に派遣した学生は99名でした。

夏期・春期休暇に実施する「海外研修プログラム」には133名の学生が参加、「日本語指導実習プログラム」では44名が海外の教育機関で日本語の指導実習を行いました。

一方、英語圏への留学希望者を対象とした国内英語研修を毎年行っています。2011年度は8月に同志社びわこリトリートセンターにおいて3泊4日で実施、参加者は19名でした。TOEFL®のスコアアップをめざして、自己学習が困難なスピーキングやライティングを中心に授業が行われました。

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数 (2011年5月1日現在)

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部				
学芸学部	315	356	1,570	1,812
現代社会学部	400	443	1,620	1,841
薬学部	120	132	720	801
表象文化学部	290	326	890	948
生活科学部	215	251	860	1,024
合計	1,340	1,508	5,660	6,426
研究科				
文学研究科	31	17	70	37
国際社会システム研究科	10	3	20	6
生活科学研究科	13	9	26	21
合計	54	29	116	64
総計	1,394	1,537	5,776	6,490

教員数、職員数 (2011年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
180	525	705	73	65	138	843

**国家試験で高い合格率を維持
保育士資格の取得も可能に**

国家試験では、高い合格率を維持しています。2011年3月に行われた「第25回管理栄養士国家試験」では、生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻を同年3月に卒業した91名全員が受験し、90名が合格しました。合格率は98.9%となり、前年の合格率(97.6%)を1.3ポイント上回りました。

また、現代社会学部現代こども学科第5期生のうち58名が受験した「公立小学校教員(講師を除く)採用試験」の二次試験には、40名が現役で合格しました。合格率は69.0%となり、前年実績(67.8%)より1.2ポイント高い結果となりました。

「薬剤師国家試験」では、2012年3月卒業の薬学部医療薬学科第2期生(6年制課程)128名全員が第97回試験を受験し、116名が合格。合格率は90.6%でした。現在では、第1期・第2期の全卒業生276名のうち、94.9%にあたる262名が、薬剤師の免許を取得しています。

その他にも多彩な免許・資格取得課程を用意しています。現代こども学科では「保育士養成課程」(定員50名)を設置し、2012年4月の入学生から、保育士資格の取得が可能になります。

**社会福祉法人と新たに協定締結
社会連携事業を推進**

企業や団体との連携活動にも、積極的に取り組みました。2012年1月には、社会福祉法人盛和福祉会 児童養護施設・乳児院「京都大和の家」と、連携協力に関する協定を締結しました。社会福祉法人との協定は、今回が初めてとなります。相互の連携を通じて教育・研究の推進、社会福祉・地域社会の発展、及び人材育成に寄与することを目的としています。インターンシップ事業を通じた企業との連携も成果を上げています。生活科学部食物栄養科学科食物科学専攻の学生が、実習先である株式会社三輪そうめん山本と共同開発した食品が商品化されました。

**安定した大学運営
今後5年の活動方針・方策を示す**

2012年度入学者の一般入試志願者数(センター利用入試を含む)は9,716名(前年度比5%減)であり、そのほかの入試の志願者数は3,586名(前年度比5%増)でした。入学定員充足率は1.15倍となり、学生生徒等納付金による安定した収入が見込まれます。

創立から1世紀以上が経過し、大学

が果たすべき役割も大きく変化しています。同志社女子大学は将来構想に向けて、「リベラル・アーツ」、「社会」、「女性・女子大学」をキーワードとして、今後5年間(2012年度から2016年度まで)の活動方針・方策をまとめ、大学公式サイトでも公表しています。品格と良心を持って、豊かな世界づくりに寄与することができる女性の育成をめざします。

同志社女子大学2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	大学院薬学研究科医療薬学専攻博士課程設置認可申請	入学定員4名、収容定員16名、2012年度開設 2011年10月24日設置認可
教職員採用	専任教員(生活科学部食物栄養科学科1名)、特別任用教授[1号](教職課程センター1名)、特別任用教授[2号](学芸学部音楽学科1名・教職課程センター1名)、特別契約教員(現代社会学部社会システム学科1名・表象文化学部英語英文学科2名)、任期付教員(現代社会学部社会システム学科1名・表象文化学部日本語日文学科1名)、特別任用助教(薬学部医療薬学科1名)、特別任用助手(薬学部医療薬学科4名)、専任教員1名	
教育・研究	現代社会学部現代こども学科の保育士養成課程設置申請	課程の定員50名 2011年3月設置計画書、2011年8月指定申請書提出 2012年1月23日付で、児童福祉法第18条の6第1号の規定による保育士を養成する学校その他の施設として指定され、平成24年4月以降の入学者の養成について適用することが承認
	学芸学部国際教養学科カリキュラム変更	2011年度入学生より適用
	文学研究科英語英文学専攻博士課程(前期)カリキュラム変更	2011年度入学生より適用
入試制度	薬学研究科医療薬学専攻博士課程入学試験実施	一般、社会人、外国人留学生、特別推薦入学試験
	学芸学部音楽学科入学試験の新設・変更等	「推薦入試<専願>」、「社内校推薦入学試験」出願資格変更、「演奏専攻」入試コース新設、「音楽文化専攻」AO方式入学者選抜第Ⅰ項、及び第Ⅱ項募集を4コースに拡大・公募推薦入学試験導入・一般入学試験(前期日程、後期日程)の募集において新たな入試方式を追加
学生生徒支援	学生支援推進プログラム(学生支援GP)	平成23年度「大学教育・学生支援推進事業」学生/就職支援推進プログラム意見交換会(2011年12月15日事例発表)
	「同志社女子大学奨学金」の充実	奨学金総額の増額
財政	第2号基本金組入	キャンパス施設設備充実実資金8億円
	第3号基本金組入	教育研究充実基金4,000万円
その他	学術交流等各種連携協定に基づく事業の実施	金城学院大学、奈良県立医大、ANA、守口市教育委員会、など 2012年1月18日に社会福祉法人 盛和福祉会 児童養護施設・乳児院「京都大和の家」と連携協力に関する協定締結
	教育連携協定校との各種事業展開	平城高校、高田高校、一条高校、京都学園高校、など全12校

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
京田辺キャンパス 経年劣化対策事業	顕啓館・恵真館屋根等漏水対策、知徳館空調設備、知徳館・顕啓館自動火災報知設備更新、めぐみ寮2～4階西側トイレ改修、エネルギー棟扉・擁壁改修など	2011年8月～ 2012年3月	4億200万円	学生生徒等納付金
今出川キャンパス 経年劣化対策事業	栄光館屋根等漏水対策、心和館給水配管、屋上防水等改修、デントン館サーバ室エアコン設置など	2011年 4月～11月	1億6,400万円	学生生徒等納付金
京田辺キャンパス 整備事業	地上デジタル対応工事(めぐみ寮含む)、C461改修、憩水館換気改善、舗装工事、他	2011年4月～ 2012年3月	2,800万円	学生生徒等納付金
今出川キャンパス 整備事業	地上デジタル対応工事(みぎわ寮含む)、PC自習室増設、ドラフトチャンパー設置、新心館近隣防音対策工事など	2011年 4月～9月	1,300万円	学生生徒等納付金
教室整備	京田辺キャンパス一般教室AVシステムリプレイス	2011年 4月～9月	4,600万円	学生生徒等納付金
その他施設整備	メールシステム、及びユーザ認証システムリプレイス	2011年 4月～9月	4,700万円	学生生徒等納付金

同志社中学校・高等学校



生徒の自主性と
多様性を尊重した
教育を実践



同志社中学校・高等学校
木村良己 校長

中学教室棟「立志館」、高校教室棟「桑志館」、チャペル棟「宿志館」の3つの「志」を核に、これらを支える機能を持つ建物群が揃うキャンパスで、中学生と高校生が共に学校生活を送っています。自然豊かな教育空間、かきたてられない時間の中で生涯の仲間と共に学問することを通して、生徒の自主性と多様性を尊重しながら、一人ひとりが自ら考え判断し行動する「一国の良心」に期待される人間力を育てていきます。

DATA	■創立	1875年
	■所在地	〒606-8558 京都市左京区岩倉大鷲町89 TEL：075-781-7121
	■URL	http://www.js.doshisha.ac.jp/

国内外に広がる交流の輪

中学校と高等学校統合2年目の2011年度は、教育面では知的好奇心や探究心を重んじる教科活動はもとより、特別教育活動でも生徒の自主性を尊重し、「同志社人」に期待される人間力の育成に力を注ぎました。また立石ファンダを活用し、英語検定試験の受験奨励と助成、英語学習支援システム・ソフト導入、国際交流プログラム充実のための海外視察などを行いました。

国際交流プログラムでは、ヌエバスクールに中学校の生徒を5名、ウェスリーカレッジに高校の生徒を8名派遣しました。また、新島先生の縁でつながった風間浦中学校との交流20周年を記念し、訪問交流を行いました。

発達段階に応じた一貫教育を推進

2009年度から進めてきた学則定員の変更については、中学校の1学年8クラス36名学級、高校の1学年8クラス45名学級が完成しました。教科教室とメディアスペースを核にした中学校の「教科センター方式」と、ホームルーム教室を中心に据えた高校の「特別教室方式」という発達段階に応じた一貫教育をより一層推し進めます。「パワーアップセミナー」では、エコノミストの浜矩子氏など多彩な講師をお招きしました。生きることへのこだわりを持って社会で活躍する人たちの生きざまに触れ、生

徒たちは将来に向けた1つの指針を与えられたのではないかと思います。

12年度入学者の入試実績は、中学の一般入試の志願者は414名、合格者

は259名。高校は前年度より推薦入試を導入し、一般入試（50名）、推薦入試（30名）を合わせて279名の志願者があり、合格者は179名でした。

同志社中学校・高等学校2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	学則定員変更(高等学校)	2011年度学則定員1,080名、入学定員360名1学年8クラス完成
教職員採用	専任教員3名採用	英語科1名、理科1名、数学科1名
教育・研究	土曜日特別補講	高校2年生対象(数学・英語)、高校3年生対象(化学・物理)
	パワーアップセミナーの実施	高校3年生対象「特別企画」(将来展望・進路開拓)
	研究誌発行	彰栄35号(教育・研究実践)(中学校)
	国際交流プログラムの実施	ヌエバスクールへ中学生5名派遣、ウェスリーカレッジへ高校1年生8名派遣
入試制度	入学試験選抜方法の改革	高校募集定員30名の推薦入試を実施
	同志社小学校からの推薦受入	中学1年生約70名
学生生徒支援	奨学事業の実施	給付17名：四方秀和奨学金(3名)、同志社高等学校特別奨学金(3名)、同志社校友会奨学金(高校生1名、中学生3名)、同志社中学校新島会奨学金(6名)、同志社中学校司鐘奨学金(1名) 貸与4名：同志社高等学校学資貸与金(1名)、同志社中学校桑の実奨学貸付金(3名)
	修学支援事業の実施	あんしん修学支援金(給付：101名)
	奨学金加算給付措置	京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業導入に伴い、四方秀和奨学生に対し特別奨学金から教育充実費相当額を加算給付
財政	第2号基本金組入	教学施設設備資金1億2,500万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
校務システムリプレイス	成績管理、出欠管理等のシステム更新	2011年度～2012年度	1,960万円	特定支出準備金
知創館メインホールPC更新	メディアセンター知創館メインホール設置PC及び貸出用ノートPC等の更新	2011年度	830万円	学生生徒等納付金
南体育館付属棟トイレ修繕事業	タイル破損箇所修復、及び塗装工事他	2011年度	705万円	特定支出準備金
北校地植栽整備	北校地の未整備部分の植栽緑化工事	2011年度	735万円	学生生徒等納付金
図書メディアセンターPC更新	図書メディアセンター生徒用PC更新	2011年度	413万円	学生生徒等納付金

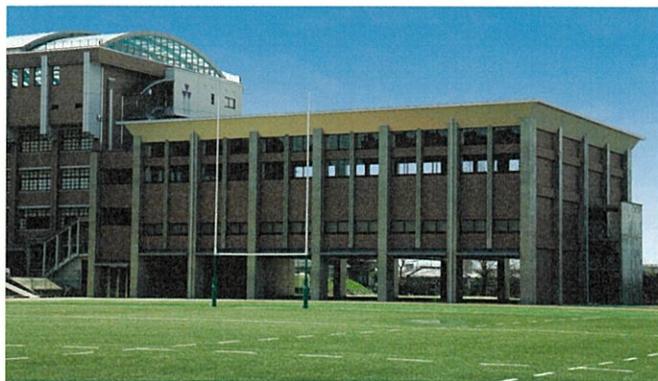
入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2011年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	288	292	864	876
高等学校	360	354	1,080	1,079
合計	648	646	1,944	1,955

教員数、職員数(2011年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
87	51	138	12	18	30	168

同志社香里中学校・高等学校



創立60年を経て、
改めて認識する
同志社の教育理念



同志社香里中学校・高等学校
にしやま けいいち
西山啓一 校長

1951年に京都府外で唯一の「同志社」としてスタートした本校は、2011年度に創立60周年を迎えました。12年度には新校舎が完成します。これに先立ち、ハード・ソフト両面で総合的な学校改革を進めました。創立60周年という節目の年に、教育理念である「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」を改めて認識し、本校の持ち味を生かしながら、同志社ならではの教育を実践していきたいと思っています。

DATA ■ 創立 1951年
■ 所在地 〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町15-1
TEL : 072-831-0285
■ URL <http://www.kori.doshisha.ac.jp/>

活発化した国際教育

理数教育を強化する高大連携のセミナーを本格化させました。宇宙航空研究開発機構(JAXA)や民間企業を訪ねて最新の研究成果を学ぶ「サイエンス・テクノロジー企業講座」も継続実施しました。JAXAのイベントに参加した生徒がその体験談を新聞社に投稿し、紙面で取り上げられたことが特筆されます。また「立石ファンド」を活用し、英語検定の世界標準の1つ「TOEFL」の集団受験を開始しました。

国際教育では、フィリップスアカデミーの「アジアウィークエンドフェスティバル」に、高校生8名と中学生1名が初参加し、日本の文化を紹介しました。さらにオーストラリアのノックス校との交流プログラムを開始したほか、留学生を受け入れるだけだったグレシャム校との交流プログラムでは、初めて高校生12名と中学生8名が渡英しました。

各クラブ活動で優秀な成績

例年、優秀な成績を収めるクラブが多く、特に2011年度は中学のダンス部が国際大会で、高校のダンス部が全国大会の新人戦で優勝するなど、輝かしい成果を上げました。

また、高校に新カリキュラムが導入される2013年度に向けて、12年度に先行実施する国語・理科・数学の授業

時間拡大のための準備を行いました。中学校の入学試験では、後期日程を新たに導入しました。12年度入学試験の

結果は、中学校が志願者1,077名、合格者441名(B入試含む)で、高校が志願者73名、合格者70名でした。

同志社香里中学校・高等学校2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用 教育・研究	専任教員2名採用	退職者補充(英語科1名、理科1名)
	海外交流プログラム	フィリップスアカデミー訪問プログラム(7日間、高校生8名、中学生1名参加、アジアウィークエンドフェスティバルに参加)、バンクーバー語学研修プログラム(17日間、高校生26名、中学生2名参加)、オーストラリアノックス校交流プログラム(9日間、高校生1名参加)、イギリスグレシャム校交流プログラム(11日間、高校生12名、中学生8名参加)、ヌエバスクール交流プログラム(9日間、中学生5名参加)
	国際交流イベント "The Small Planet 2011"	異文化理解と交流、高校生全員と中学生希望者参加
	アドバンス講座	国立大学等をめざす生徒を対象に、外部講師による講義
	キャリア教育	社会人講師を招いての実践的キャリア教育
	人権アセンブリー	映画・講演等による人権教育、中学3年生と高校生全員参加
	福祉体験授業	中学1年生参加、寝屋川市福祉協議会等の協力による車椅子での移動体験学習
入試制度	中学入試方式の変更	後期日程を導入(志願者：前期：373名、後期654名)
学生生徒支援	奨学事業	給付13名：校友会奨学金(1名)、校友会135周年奨学金(1名)、同志社香里PTA奨学金(9名)、同志社香里奨学金(2名)
	就学支援事業	大阪府私立高校生等就学支援推進校指定による奨学金(高1：103名、高2：32名、高3：27名)
財政 その他	創立60周年記念事業募金	特別教室棟・新高校舎棟などの建設事業
	オープンキャンパス・体験授業	2回実施、小学6年生と保護者が参加
	わくわくサイエンスデー(JSTによる補助事業)	2回実施、寝屋川市内の小学生向け理科体験授業
	クリスマスセレブレーション	地域住民との交流

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費(2011年度分)	財源
60周年記念事業第1期工事	特別教室棟・新普通教室棟建設、新旧明誠館・新日尚志館解体、周辺整備工事	2009年4月～2013年3月	4億7,830万円	自己資金・寄付金・法人内資金
60周年記念事業第2期工事	有朋館耐震・改修工事、第2グラウンド整備、野球場整備、新多目的グラウンド整備、駐車場整備	2011年4月～2013年3月	2億2,250万円	自己資金・寄付金・法人内資金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2011年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	247	720	741
高等学校	315	304	945	907
合計	555	551	1,665	1,648

教員数、職員数(2011年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
66	40	106	8	0	8	114

同志社女子中学校・高等学校



■ 創立	1876年
■ 所在地	〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1 TEL : 075-251-4305
■ URL	http://www.girls.doshisha.ac.jp/

自らの時代に従って
凛として生きる
ハンサム・ウーマンを育成



同志社女子中学校・高等学校
おたのぶゆき
太田信幸校長

校祖・新島襄は、「妻の八重はハンサムではありませんが、ハンサムな生き方をする女性です」と評しています。ハンサムな生き方とは、どんな時代や環境下にあっても首尾一貫、潔く、凛として生きること。すなわち、自らの信念に従って生きることと言ってよいでしょう。同志社女子中学校・高等学校は、八重のようにハンサムに生き、「地の塩、世の光」となって社会の各分野で活躍する女性の育成をめざしています。

中学校に後期日程入試を導入

2011年度に最も大きく変わったのは、中学校の入試制度です。同志社内4中学校のうち本校と同志社香里中学校が、後期日程を導入しました。「同志社」への進学希望者に対して一層、門戸を広げることを目的とし、後期日程においても本校と香里中学校で日程をずらしているため、女子に限っては3回の受験機会があります。募集定員は前期が215名（自己推薦入試定員45名を含む）、後期が25名。志願者数は前期が291名、後期が431名でした。

またリベラルアーツ（LA）・ワイルドローヴァー（WR）両コース制ができてからの4期生を送り出しました。卒業生の進路はWRコースでは医学部、薬学部、看護学部、理工学部など理系の幅広い分野にわたります。LAコースも同志社大学、同志社女子大学への内部推薦で、例年通りの実績を上げました。

新校舎建設の基本構想段階に

国際交流としてアメリカのヌエバスクールに中学生5名を派遣し、高校生の英国語学研修では、派遣先をモーバンカレッジに変更しました。ホストファミリーと触れ合うことで生きた語学が学べると、生徒に好評です。全校生徒を対象に行っている芸術鑑賞では、劇団芸優座の演劇を鑑賞しました。

英語・数学の基礎学力向上をめざす

「チューター制度」は、導入2年目を迎えました。本校の卒業生からマン・ツーマンで指導を受けた生徒は、着実に学力を向上させています。

ハード面では2015年度の完成に向けて、新校舎の基本構想段階に入りました。既存の校舎については、各教室

のガラスに飛散防止フィルムを貼り、万が一地震が発生しても被害を最小限に抑えられるようにしました。

12年度入学者の入試実績は、中学校が定員240名に対して合格手続者数は248名、高等学校は定員20名に対して合格手続者数は24名でした。

同志社女子中学校・高等学校2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員1名	退職者補充(国語科1名)
教育・研究	イギリス語学研修実施	モーバンカレッジへ高校生30名、15日間
	アメリカヌエバスクールとの交流	ヌエバスクールへ中学生派遣(5名、8日間)
	TOEIC受験	高校1年生・Bridge、2年生・Bridge、IP、3年生・IP
	新入生交流プログラムの実施	中学1年生修養会(2泊3日・ユニビシア篠山)
	宗教交流プログラムの実施	中学2年生～高校3年生(1泊2日・びわこリトリートセンター)
	平和教育	長崎修学旅行(中学2年生)、沖縄修学旅行(高校2年生)
	福祉教育	福祉施設訪問、多磨全生園訪問、高齢者施設訪問
	芸術鑑賞	劇団芸優座の演劇鑑賞(全校生)、狂言鑑賞、中国楽器鑑賞(中学1年生)
	チューター制度	本校卒業生の指導による中学生の英語・数学の学力向上
入試制度	中学入試方式の変更	後期日程入試を導入(志願者：前期291名、後期431名)
学生生徒支援	奨学金制度	同志社女子中学校・高等学校奨学金(給付3名、貸与3名)
	修学支援事業の実施	あんしん修学支援金(給付58名)
財政	第2号基本金組入	教学施設整備資金2億9,000万円(新校舎建設)
その他	オープンキャンパス・体験授業	小学6年生、父母等参加

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教育環境整備	チャペル内のプロジェクター設置	2011年6月	767万円	学生生徒等納付金
	空調システム保守	2011年4月	315万円	学生生徒等納付金
	図書館サーバー、PC更新	2011年8月	112万円	学生生徒等納付金
校地整備	新校舎建設事業に関する基本構想業務	2012年3月	305万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2011年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	254	720	747
高等学校	270	270	810	806
合計	510	524	1,530	1,553

教員数、職員数(2011年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
64	44	108	9	3	12	120

同志社国際中学校・高等学校



DATA ■ 創立 1980年
 ■ 所在地 〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷60-1
 TEL : 0774-65-8911
 ■ URL <http://www.intnl.doshisha.ac.jp/>



同志社国際中学校・高等学校
 かわいくにたか
 川井国孝 校長

考え方や行動の異なる
 生徒一人ひとりを
 大切に
 する教育を
 実践

本校には、世界各国で様々な体験をしてきた生徒が集まっています。在住した国が違えば言葉・文化・価値観が異なり、考え方や行動も変わってきます。こうした多様な生徒の一人ひとりを大切にすることが、帰国生徒教育の本質です。すべての生徒にきめ細かく、質の高い教育を提供すると同時に、自分とは違った個性を持つ他者を認め、尊重し合い、共に国際人として活躍できる自主自立の精神を育てていきます。

カリキュラム改訂の準備開始

語学教育のさらなる強化をめざし、中学は2012年度、高校は2013年度にカリキュラムを改訂します。英語の授業時間数を増やし、外国語の選択科目を充実します。11年度はその準備を行いました。

15年度からは同志社国際学院初等部の卒業生を受け入れます。生徒数が増えることへの対応と、教育環境を向上するための検討委員会を立ち上げ、ハード面の検討も開始しました。

国際交流プログラムについては、計画通りアメリカ・フランス・中国・韓国の学校に生徒を派遣しました。しかし短期留学生の受け入れは、原発事故の影響でフランスの学校以外、11年度はすべて中止になりました。また、新たな交流先を探すため、ドイツに教員を派遣しました。

12年度入学者の入試実績は、中学校の志願者が156名（海外帰国生徒78名、国内一般生徒78名、以下同じ）で、

合格者は99名（58名、41名）。高校の志願者は299名（204名、95名）で、合格者は210名（137名、73名）でした。

同志社国際中学校・高等学校2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用 教育・研究	宗教科専任教員 1名採用	増員
	カリキュラムの検討	語学教育の強化
	校内英語試験の実施	生徒全員が実用英語検定またはTOEFLを受験
	国際交流プログラムの実施 (海外短期研修)	又エバスクール交換プログラム(中学生5名)、フィリップス・アカデミー・アンドーバー・サマーセッション(高校生6名)、エコル・アクティブ・ピラング・ジャンヌ・マニュエル交換プログラム(中学生4名、高校生8名)、サマープログラム・イン・アーモスト・カレッジ(高校生16名)、中国青島第二中学(高校生9名)、韓国東邦高等学校(高校生12名)、スミスカレッジサマー&エンジニアリングプログラム(高校生1名)、アジアサイエンスキャンプ(高校生1名)、AIUハイスクールディプロマ(高校生1名)
	国際交流プログラムの実施 (短期留学生受け入れ)	エコル・アクティブ・ピラング・ジャンヌ・マニュエル交換プログラム(高校生12名)
	国際交流プログラムの実施 (長期留学生受け入れ)	カナダ(高校生1名)、スウェーデン(高校生1名)、アメリカ(高校生1名)、スイス(高校生1名)
	平和教育	中学2年生長崎研修旅行、高校2年生沖縄研修旅行、Peace Week
	同志社英語大会に参加	最優秀賞受賞
	新入生交流プログラム	中学1年生、高校1年生宿泊研修を実施
	体験学習プログラム	中学1年生(ハチ高原) 中学3年生(南阿波)
学生生徒支援	奨学事業の実施	校友会奨学金(給付2名)、新島奨学金(給付1名)、海外長期留学奨学金(給付4名)
	修学支援事業の実施	あんしん修学支援金(給付29名)
財政	第2号基本金組入	教学施設整備資金1億円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
コミュニケーションセンター 環境整備	生徒用ノートパソコン更新(195台)	2011年9月～ 2016年8月	1,800万円	学生生徒等納付金
	図書検索PC、サーバー、ソフト更新	2011年8月	448万円	学生生徒等納付金
	ネットワークサーバー入替	2011年8月	745万円	学生生徒等納付金
空調設備整備	高校教室棟・啓真館3階特別教室空調設備改修	2011年7月～8月	2,765万円	学生生徒等納付金
	啓真館屋上防水工事	2011年7月～8月	693万円	学生生徒等納付金
校舎整備	コミュニケーションセンター屋上、塔屋防水工事	2012年3月	1,070万円	学生生徒等納付金
体育施設整備	志遠館2階フローリング、及び屋根改修	2012年3月	320万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2011年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	90	93	300	299
高等学校	270	266	810	827
合計	360	359	1,110	1,126

教員数、職員数(2011年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
51	61	112	7	2	9	121

「立石杯」で日頃の成果を発揮

同志社内の各中高を対象にした英語暗唱・スピーチ大会「立石杯」では、本校の多くの生徒が入賞しました。本校の特長からすると当然かもしれませんが、名誉なことだと思います。学校全体で行っている平和教育の「Peace Week」では、中学2年生が長崎、高校2年生が沖縄への研修旅行について、事前学習の取り組みをコミュニケーションセンターで展示・発表しました。

同志社小学校



様々な体験を通じて
チャレンジする心や
問題解決能力を養う



同志社小学校
おくのひろゆき
奥野博行 校長

子供たちには、学んだ内容を取捨選択し、必要なものを取り込んで自分の生活に生かしていく「学びを編集する力」を養ってほしいと思っています。そのためには、豊かな感性と人を思いやる心が必要です。教科の学習、学校行事、子供同士の触れ合いなど様々な体験を通じて、チャレンジする心や問題解決能力を身に付けさせることが、同志社小学校が大切にしている「道草教育」の本質です。

■ 創立	2006年
■ 所在地	〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町89-1 TEL : 075-706-7786
■ URL	http://www.doshisha-ele.ed.jp/

道草研究の交流会を実施

開校6年目の2011年度には、6年生が道草教育で取り組んできた研究の成果を発表し、低学年の児童がそれを見て研究の姿勢や方法を学ぶ「道草研究の交流会」を行いました。星座の研究、お城の研究、お菓子づくりの研究などの成果が発表されるたびに、低学年の子供たちから「なぜそれを研究しようと思ったのですか」、「研究した結果、どんなことが分かりましたか」などの質問が飛び交い、有意義な交流会になりました。各界で活躍する同志社卒業生らを招き、本物に触れ、感性を磨く同志社タイムでは、北極冒険家の荻田泰永氏に「北極を歩く～僕を動かす夢の力」と題した講演をしていただきました。

充実した体験学習プログラム

宿泊体験学習では、2年生の宿泊場所を従来の花背山の家からアクトバル宇治に変更し、5年生は、新島裏ゆかりの地である函館でのファームステイを1泊から2泊に増やしました。英語教育の集大成と位置付けている6年生の修学旅行(アメリカ)ではボストン子ども博物館で、本校の児童が現地の子供たちに日本の伝統文化を教えるコーナーを設けていただき、子供たちが真剣な表情で折り紙や習字を指導していたのが印象的です。

また6年生を対象に、アメリカのアーティストが歌や演劇を教えてくれる「ミュージック・アウトリーチプログラム」を実施しました。プロから指導を受けた最上級生のパフォーマンスは下級生に大好評で、2012年度は対象を4、

5、6年生に広げる予定です。

施設面では2011年4月から、屋内運動施設「吉峰館」の使用を開始しました。女子のリレーチームが全国大会に出場するなどスポーツ面で活躍が目立ったのも、2011年度の特長です。

同志社小学校2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	新1年生入学	開校6年目(完成年度)の入学者として1年生90名(3クラス)を受け入れ、収容定員6学年540名(18クラス)
教職員採用	教諭(常勤講師)の雇用	育児休業の教員に代わり、教諭(常勤講師)を5名雇用
教育・研究	宿泊体験学習	1年生：学校(1泊2日)、2年生：アクトバル宇治(1泊2日)、3年生：ハチ高原(2泊3日)、4年生：一里野高原スキー(3泊4日)、5年生：北海道(4泊5日)、6年生：修学旅行
	修学旅行	6年生：アメリカ(6月6日～14日、アーモスト・ボストン)
	水泳教室	継志館プールを使用して開催(7月21日～22日)
	同志社タイム	各界で活躍する同志社卒業生・在校生などを招き、本物に触れ感性を磨く体験学習を実施(2011年度は「荻田泰永氏(北極冒険家)：北極を歩く～僕を動かす夢の力～」)
	国際交流・国際理解教育	同志社大学の留学生を招き、英語の授業を中心に児童と交流を深める活動を実施
	ワークショップ	6年生を対象に、ヤング・アメリカンズのミュージック・アウトリーチプログラムを実施
学生生徒支援	奨学事業の実施	同志社小学校奨学金(給付2名)
財政	同志社小学校教育支援、及び施設・設備整備資金募金	一口20万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
グラウンド整備	全面的に、エコクレイ(再生土)を混ぜて填圧整備	2011年8月	214万円	学生生徒等納付金、寄付金
家庭科室外部ドア設置	準備スペースに廊下から直接出入りできるドアの設置	2012年3月	21万円	学生生徒等納付金、寄付金
教室カーテン取付	ブラインドカーテンの取替	2012年3月	62万円	学生生徒等納付金、寄付金

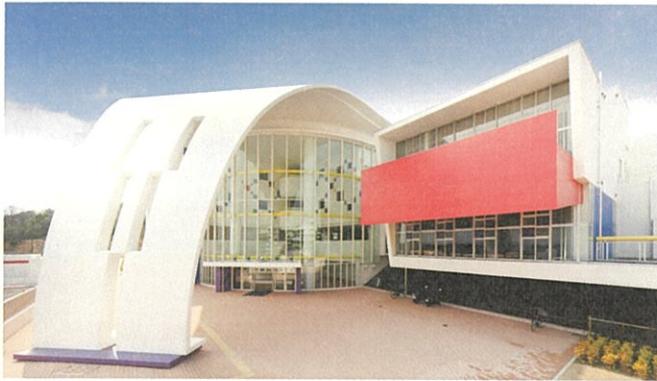
入学定員、入学人数、収容定員、児童数(2011年5月1日現在)

	入学定員	入学人数	収容定員	在籍者数
小学校	90	90	540	540

教員数、職員数(2011年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
31	15	46	2	1	3	49

同志社国際学院



教職員が一体となって
同志社が世界に誇れる
国際学院を創造



同志社国際学院
おおさきひろかず
大迫弘和 校長

同志社国際学院 (DIA) は、同志社の教育理念に基づいて考案された「Learning for Life, Learning for the World, Learning for Love」をモットーに掲げています。日英バイリンガルの初等部 (小学校)、インターナショナルスクールの国際部 (DISK) の2つの学校は、共に順調にスタートを切ることができました。教職員が一丸となって、世界に誇る素晴らしい国際学院に育て上げていきます。

DATA	■ 創立	2011年
	■ 所在地	〒619-0225 京都府木津川市木津川台7-31-1 TEL : 0774-71-0810
	■ URL	http://www.dia.doshisha.ac.jp/

全学にみなぎる活気と新しい息吹

DIA 開校1年目の2011年度は学校全体に活気が満ち、様々な場面で新設校特有の新しい息吹を感じ取ることができました。

文部科学省から教育課程特例校として認定された初等部には教育の柱が2つあります。1つ目は、日本語を基盤にして英語力を強化する母語基盤型の日英バイリンガル教育。2つ目は探究型学習です。国際バカロレア機構の枠組みと手法を使い、日本の学習指導要領の内容を単に覚えるのではなく、「考えながら学ぶ」教育方法を実践しています。

IBを核においたDISKの教育を展開

国際部 (DISK) では2012年3月に、国際バカロレア機構から正式にIBの認可がおり (プログラムの対象は11年生・12年生)、エレメンタリースクールも候補校となりました。全12学年でIBを核にしたDISKの教育を展開し、世界のインターナショナルスクールを凌ぐ学校に育てていくのが、私たち教職員の使命だと考えています。

DIA 初等部とDISKエレメンタリースクールの合同宿泊行事では、1年生は校内、2年生は同志社びわこリトリートセンター (1泊2日)、3年生は三重県 (2泊3日) の宿泊体験学習を行いました。

木津川市の誘致を受けて開校した本校では、校内行事には可能な限り地

元の方々をお招きしています。クリスマスページェントはその代表で、子供たちや保護者、地元の方々为一体と

なって楽しむことができました。同志社らしい有意義な行事ですので、2012年度以降も続けていく予定です。

同志社国際学院2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	国際学院開校	開校初年度の入学者として、初等部3学年、国際部12学年を受け入れ (初等部 定員180名、国際部 定員120名)
教職員採用	初等部：専任教員14名 (うち有期教諭4名) 国際部：専任教員16名 (うち特任教諭14名) TIE授業サポートスタッフ3名 専任職員：2名	2010年度先行採用専任教員含む 初等部：5名 (うち有期教諭1名) 国際部：3名 (うち特任教諭3名)
教育・研究	国際部：IB (International Baccalaureate) DP (Diploma Programme) 認可	
	国際部：IB (International Baccalaureate) PYP (Primary Years Programme) 候補校	
	国際部：WASC (Western Association of Schools and Colleges) 申請	
	宿泊体験学習 (1年と3年は初等部・国際部合同で実施)	1年：校内 2年：滋賀県 (同志社びわこリトリートセンター) 3年：三重県
初等部校外学習	1年：東大寺、京都府立植物園、けいはんな記念公園 2年：山城町森林公園、山城多賀フルーツライン、相楽木綿伝承館 3年：橿原市昆虫館、京都ハンディクラフトセンター	
国際部校外学習	G4・G5：京都新聞社 G6：銀閣寺、聖アグネス教会 G6・G7・G8：箱館山スキー学習、海遊館	
入試制度	初等部 秋学期入学・冬学期入学 I 編・転入試 / 春学期入学 編・転入試 / 新1年生 I 入試、D入試 国際部 随時実施	I入試：国際的な生育背景を持つ志願者の為の入学考査 D入試：一般入試に当たる入学考査
学生生徒支援	スクールバス運営	JR祝園・近鉄新祝園駅 (登校時2便、下校時2便) 近鉄学研奈良登美ヶ丘駅 (登校時1便、下校時2便)
財政	初等部教育支援、及び施設・設備整備資金募金	登下校情報管理用ICタグ
その他	初等部保護者後援会の発足	学校生活・教育をより充実させるため Learning Community を形成し、会員相互の親睦をはかることを目的として「初等部きずな会」が発足

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
ICTシステム設定変更	USBポート、動画利用に伴う設定変更とセキュリティ強化など	2011年8月	294万円	学生生徒等納付金、寄付金

入学定員、入学者数、収容定員、児童数 (2011年5月1日現在)

			入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
国際学院	初等部	1年生～3年生	180	138	180	138

教員数、職員数 (2011年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
20	0	20	2	2	4	24

同志社幼稚園



DATA ■創立 1897年
 ■所在地 〒602-0836 京都市上京区今出川通寺町
 西入常盤井殿町543-1
 TEL : 075-251-4391
 ■URL <http://kinder.doshisha.ac.jp/>

多くの体験体得によって
 目標達成できることを
 気付かせる教育



同志社幼稚園
 堂腰きみ子園長

幼児教育は協調性や自立心、共感、友だちと共に行動する「共汗」が必要と考えています。そのため2011年度は、預かり保育の内容を一新しました。また、教育目標である「聞く力」「伝える力」「表現する力」の3つの柱で保育内容を充実、従来のクラブ活動を改称した「修業チーム」という新しい保育も始めました。子供たちの精神教育に欠かせない絵本を読む機会を増やし、図書の貸出しを開始しました。

絵本の世界を広げる

2011年度は幼児期の教育に大切なひとつである絵本の普及を目的に、新たに図書を購入しました。子供の想像力を育て、絵本を通して自分の思いや考えを持ち、夢を膨らませることができたらと思っています。園庭のログハウス「ぬくもりの家」に本棚を設置して園児が本に親しむきっかけを増やし、図書の貸出しも始めました。

未就園児教室「こひつじクラス」では、ぬくもりの家を使って保護者に自由に絵本を読んでもらう機会を増やしました。そして、親子に読み聞かせの機会も持ちました。園庭で遊んでもらった後はホールで、こひつじクラスに参加された保護者に、幼稚園の楽しさや大切にしている教育を理解していただけるように努めました。

子供同士の中で対応力を育む

在園児を対象にした預かり保育は実施回数を増やし、時間も最長2時間半まで延長しました。従来は午前中の保育でできない部分を補う形でしたが、11年度は年少・年中・年長の縦割りクラスにし、園児が“子供たちだけの世界”で遊べるようにしました。自分に起こった出来事を、自身で対応できる力を付けさせるのが目的です。

子供同士で遊ぶ機会を増やしたこと

で、人間力や精神力が育まれました。特に、年下の園児の面倒を見た年長児が著しく成長しました。預かり保育を楽しむに園児の声も上がり、常に80%以上の園児が参加しました。

園児に好きな活動を選択させていた「クラブ活動」を「修業チーム」と改称し、教員が園児一人ひとりの特性に合わせて「音楽リズム」「絵画製作」「オペレッタ」「体操」の中から所属するチー

ムを定め、得意なものを伸ばし、苦手なものを克服できるようにしました。こうした活動を通じて、難しいことでも頑張っ取り組めば、目標達成まで一歩ずつ前進することを学びました。

また、週1回の給食を開始し、煮物を中心とした惣菜のバイキング形式を採用しました。食べ物の好き嫌いを園児に確認し、食の楽しさを感じられるように工夫しました。

同志社幼稚園2011年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	嘱託教諭1名	預かり保育等の充実に伴い増員
教育・研究	預かり保育の充実	在園児を対象に実施している保育終了後の預かり保育の実施回数、時間を増加し充実
	満3歳児保育の実施	満3歳児を対象に在園児と同様に半日保育を実施(年間95回実施)
	未就園児教室の充実	地域の未就園児を受け入れて教育指導を行う未就園児教室の開催に重点的に取り組み、在園児との交流等様々な体験を通して子供の成長を促すと共に、地域の子育てを支援(年間45回実施)
	図書の貸出し	自分の好きな絵本を選び、様々な絵本を見て絵本の世界に触れる機会を提供
食育推進と食事マナーの向上	食育推進と食事マナーの向上	食物のあらゆる栄養を考え、偏食をできるだけなくし、食事マナーの基本を身に付ける機会を提供
	「修業チーム」で保育を実施	縦割りクラスで「音楽リズム」、「絵画製作」、「オペレッタ」、「体操」の4つのグループに分かれ、園児の関心や意欲を高め、努力することの大切さを学ぶ
財政	第3号基本金組入	教育基金1,000万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
園庭ログハウス内装整備	ログハウス内に棚板やカーペット等の内装を整備	2011年4月	22万円	学生生徒等納付金、補助金
トイレ、及びトイレ前手洗い場改修工事	トイレブース、便器等の改修工事	2011年8月	192万円	学生生徒等納付金、寄付金、補助金
園庭遊具修繕	園庭ジャングルジム、及びシーソー修繕	2011年10月	42万円	学生生徒等納付金、補助金

入園定員、入園者数、収容定員、園児数(2011年5月1日現在)

	入園定員	入園者数	収容定員	在籍者数
幼稚園	30	30	100	90

教員数、職員数(2011年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
3	3	6	0	0	0	6

特集 1

新島八重の生涯

激動の時代を凛々しく生きた 近代女性の“先駆者”



新島八重の生涯は、3つの時期に分けて考えることができます。会津で生まれ、戊辰戦争で敗れるまでの第1期は「幕末のジャンヌ・ダルク」、京都で暮らした第2期は「ハンサム・ウーマン」、篤志看護婦として活躍した第3期は「日本のナイチンゲール」と象徴されていますが、これらを通して近代女性の先駆者として激動の時代を生き抜いた八重の自立した生き方が見えてきます。

男勝りの娘時代、興味は鉄砲や砲術

八重は弘化2年11月3日(1845年12月1日)に、会津藩の砲術師範を務める山本家の三女として生を受けました。男勝りの八重は、13歳の時に四斗俵(約60kg)を肩まで4回も上げ下げするほどの力持ちでした。兄・覚馬の影響を受けて、射撃や砲術の知識も身に付けました。

1868年の会津・戊辰戦争では鶴ヶ城に立てこもり、新政府軍と最後まで戦い抜きます。ここで八重は、「幕末のジャンヌ・ダルク」と呼ばれるようになった逸話を、いくつも残しています。例えば、亡き弟・三郎の服を着て、断髪し、新式の西洋銃と刀を持ち、腰に銃弾100発をぶらさげて銃撃戦に加わりました。砲術の心得を生かして大砲隊の指揮をとったり、白虎隊の少年の一人に銃の扱い方を教えたりもしました。兵糧づくりや、負傷者の看護なども行っています。

京都時代、襄との出会い・結婚

戊辰戦争に敗れて会津を追われた八重は米沢を経て、京都府の顧問に就いていた兄・覚馬を頼って、1871年に上洛します。ここで、兄の影響から英語を学び、洋髪・洋装の婦人に生まれ変わります。翌年には、日本初の公立女学校「女紅場」で、礼法などを教え始めます。

その頃、兄のところに出入りしていた新島襄と出会います。1874年にアメリカから帰国し、キリスト教主義の学校を京都に作るために奔走していた襄は、「黙って男性に従うだけではない女性を妻に」と考えていました。こうした考えの襄にとって、八重は理想の女性だったのでしょう。1876年に八重はプロテスタントの洗礼を受け、襄とキリスト教式の結婚式を挙げます。日本人としてのキリスト教式の結婚式は京都初であり、八重にとって襄との結婚は、保守的な風土の京都で新たな戦いの始まりだったのです。

八重は夫・襄の了解のもと、自分が正しいと思うことは断固実行しました。そんな八重を襄は大切にしました。米国の養母に宛てた手紙で襄は、「彼女は決してハンサム(美人)ではありません。生き方がハンサムなのです」と述べています。これが「ハンサム・ウーマン」の由来です。

心臓病を患っていた襄は、献身的に看病する八重の腕に抱かれながら1890年1月23日に、「グッバイ、また会わん」と言い残して亡くなります。わずか14年の夫婦生活でしたが、襄にとって八重は最良の伴侶でした。同志社創立という

大事業も、八重の支えがなければ成し遂げられなかったでしょう。

夫の死後、福祉活動に力を注ぐ

襄の死後、八重は日本赤十字社の正社員となり、社会福祉活動に情熱を注ぎます。1894年の日清戦争では広島陸軍予備病院で4カ月、篤志看護婦として従軍。40名の看護婦をまとめる取締役でした。1904年の日露戦争でも、大阪の予備病院で2カ月間、篤志看護婦として従軍します。まさに、「日本のナイチンゲール」と称されるのにふさわしい活動といえます。

幕末から昭和までの激動の時代を生き抜いた八重は、急性胆のう炎で1932年6月14日に永眠します。葬儀は同志社社葬として、その年に完成したばかりの栄光館で、盛大に行われました。

八重の生涯を振り返ると、どの時期でも自分の生き方をはっきりと打ち出し、自らの力で切り開いた人生を迷わずに歩む、その凛とした生き方からは、現代の私たちが学ぶべきところが多くあります。2012年は八重没後80年にあたります。八重が生きていたら、閉塞感の漂ういまの日本でどのように行動したでしょうか。

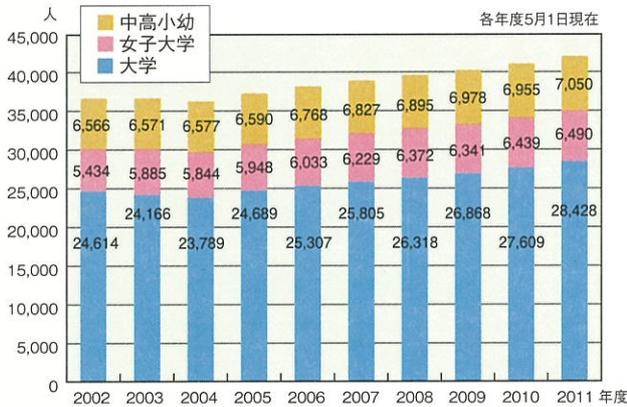
3つの時期に分かれる新島八重の生涯

第1期	1845年(弘化2年)	11月3日: 会津藩(現・会津若松市)で生まれる。父・山本権八、母・佐久。兄は山本覚馬
	1865年(慶応元年)	この頃、川崎尚之助と結婚(戊辰戦争敗戦後に離別)
	1867年(慶応3年)	大政奉還
	1868年(慶応4年)	1月: 鳥羽・伏見の戦い。戊辰戦争勃発。弟・三郎が戦死 8月23日: 会津・鶴ヶ城で籠城戦始まる。戦死した三郎の服を着て、銃を持って入城 9月22日: 会津藩が降伏し開城
第2期	1869年(明治2年)	兄・覚馬が京都府の顧問に就任
	1871年(明治4年)	覚馬を頼って、母・佐久、姪・峰と共に京都へ
	1875年(明治8年)	10月15日: 新島襄と婚約。11月29日: 同志社英学校を開校
	1876年(明治9年)	1月2日: 洗礼を受ける(京都初)。1月3日: 襄と京都初のクリスチャンの結婚式。襄32歳、八重30歳
	1877年(明治10年)	同志社分校女紅場(現・同志社女子大学)開校。礼法の教員として勤務
	1890年(明治23年)	1月23日: 夫・襄が永眠。享年46歳。八重に「グッバイ、また会わん」と言い残す 4月26日: 日本赤十字社正社員になる
第3期	1895年(明治28年)	日清戦争の救護活動のため広島に派遣(日本初の看護師による救護活動)
	1896年(明治29年)	12月25日: 日清戦争における功労と慰労に対して、勲七等宝冠章が贈られる
	1905年(明治38年)	日露戦争時に、大阪で篤志看護婦として従軍
	1906年(明治39年)	4月1日: 日露戦争における功績に対して、勲六等宝冠章が贈られる
	1924年(大正13年)	12月8日: 皇后陛下の同志社女学校行啓の際に、単独謁見を許される
	1932年(昭和7年)	6月14日: 急性胆のう炎のため、自宅で永眠。享年86歳 6月17日: 同志社栄光館において、同志社社葬を挙げる

特集2 グラフで見る同志社

※小学校は2006年度から含んでいます。
※国際学院は2011年度から含んでいます。

図1 学生・生徒・児童・園児数



大学は2000年度以降、臨時定員増の解消に伴って学生数が漸減してきましたが、2005年度以降、学部増設により増加に転じました。女子大学も新学部の学年進行で学生数が増加しています。

図2 志願者数



2009年度と2010年度は若干減少したものの、大学は2005年度以降、積極的な入試改革や新学部・学科等の展開により、また、女子大学も新学部・学科等の展開により、志願者を安定的に確保しています。

図3 教員数



教員数は2003年度以降、学部・研究科の新設や研究体制の整備など教学改革の進行に伴って専任、嘱託講師とも増加しています。職員については、非専任の活用と共に、一部業務を外部委託に移行させるなど効率化を進めています。

図4 職員数

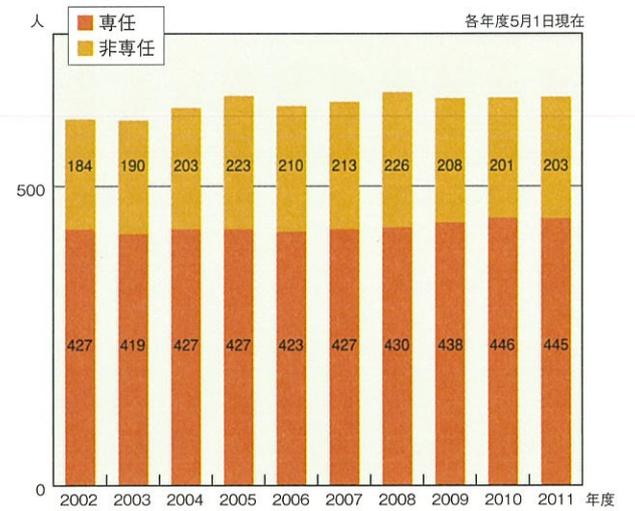
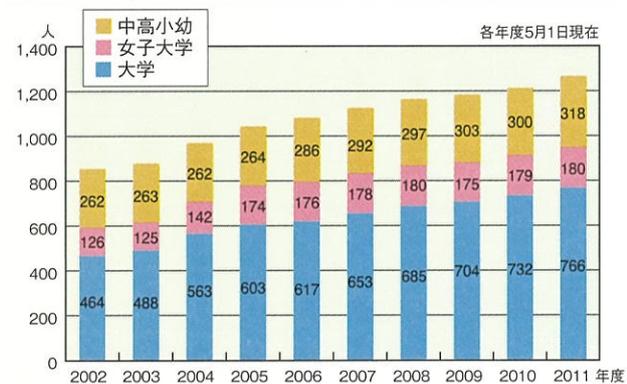


図5 専任教員数



新学部・研究科への新規採用と2003年度から開始した大学の教員充実計画により、専任教員数の増加傾向が続いています。

図6 専任教員1人当たりの学生・生徒・児童・園児数

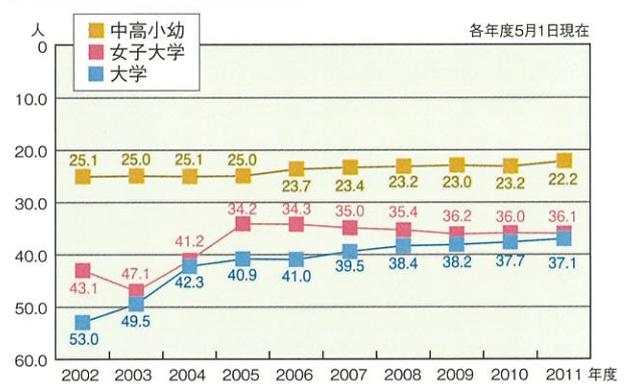


図1の学生生徒数を図5の専任教員数で割ったのがこのグラフで、数値が小さいほど教育研究条件の充実度が高いと考えられます。近年は各校ともほぼ同じ水準を保っています。

図7 留学生数

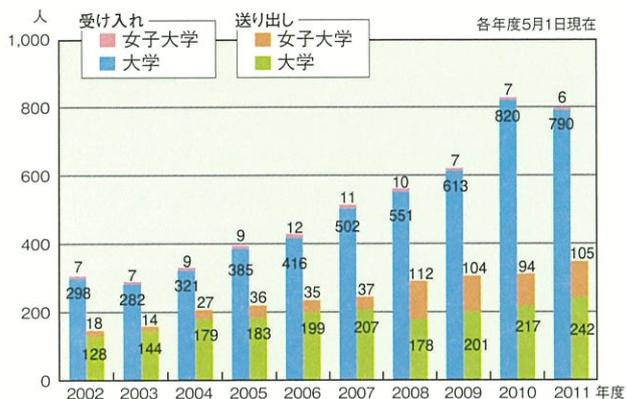
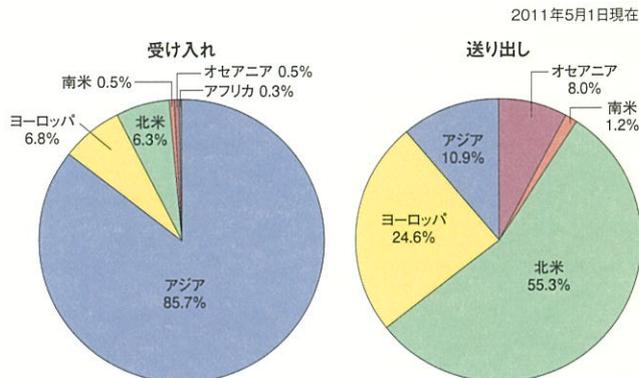


図8 留学生地域別状況



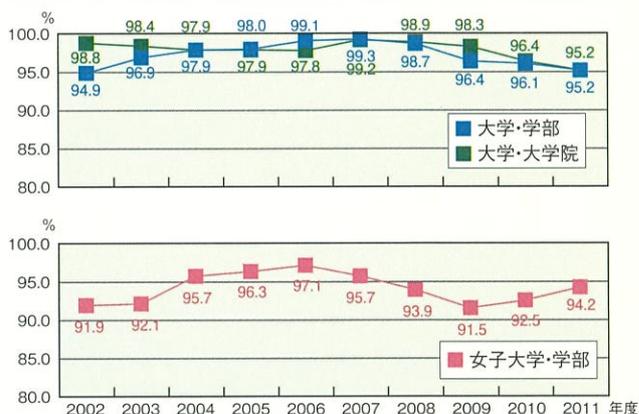
大学における留学生別科の設置や文部科学省の国際化拠点整備事業（グローバル30）の採択などにより、留学生の受け入れは着実に増加してきました。送り出しについても、大学における交流協定校の積極的な開拓や女子大学における新学科の開設などにより増加しています。地域別に見ると、受け入れはアジア（特に中国、韓国）、送り出しは北アメリカ（アメリカ合衆国、カナダ）が大きなウェイトを占めています。

図9 学内奨学金



2011年度は、京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業における京都府私立高等学校等授業料減免事業等補助金を活用した奨学金の充実により、給付額が大幅に伸びています。学内奨学金以外に日本学生支援機構や民間・地方公共団体等が提供する奨学金があり、これらを総合的に運用することで学生生徒の勉学を支えています。

図10 就職率(内定率)



就職率(内定率)とは就職希望者数に対する就職決定者数の比率です。経済低迷期に低下がみられるものの、安定的に高い水準を維持しています。なお、2009年度の女子大学の数値は確定数ではなく、該当年度末の数値です。

図11 科学研究費補助金

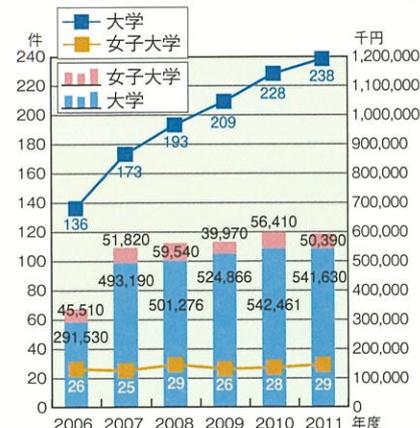


図12 受託研究費

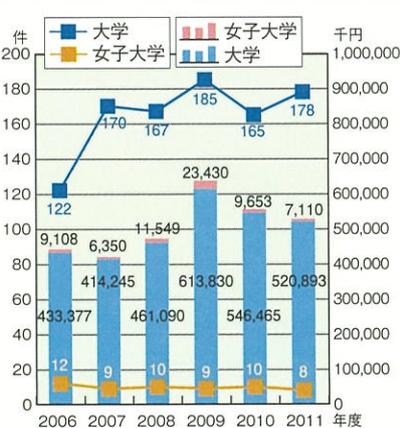
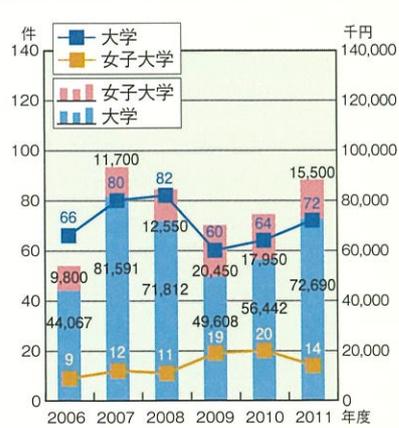


図13 奨学寄付金(研究助成)



折れ線は各研究費の採択・受け入れ件数、棒グラフは金額を表しています。研究分野における産官学連携を促進するため、学内の受け入れ体制を整備したことにより、研究費に対する外部資金の導入は順調に進んでいます。

概況

2011年度は、大学に「グローバル・コミュニケーション学部」、「国際教育インスティテュート」を新設しました。また、京都府木津川市には、文部科学省から教育課程特例校の認可を受け、日英バイリンガル教育を行う「同志社国際学院」を、大学附属で開設しました。法人内諸学校の学生・生徒・児童・園児数は、生命医科学部やスポーツ健康科学部、小学校の年次進行ならびに、国際学院の開設などにより、昨年度比で967名増加の4万1,669名(2012年2月末現在)となり、学生生徒等

納付金の安定的収入を確保することができました。

また、大学、女子大学の一般選抜入学試験で安定した入学志願者数を確保すると共に、大学のセンター試験ならびに、中学校後期日程入試を導入した香里中学校、女子中学校での入学志願者増加により、手数料で予算額を上回る増収となりました。寄付金についても、今出川キャンパス新校舎建設資金寄付金などの増収もあり、帰属収入総額は予算を大きく上回っています。

支出では、人件費、教育研究経費ともに予算内での執行となりました。建設事業では、大学で今出川校地整備事業、脳科学研究科整備事業、女子大学施設経年対策事業、香里中学校・高等学校新校舎棟建設などの事業を実施しました。

以下、学校法人会計基準に基づく計算書を中心にして、本年度の本学の財政状況を説明します。

(文中、表の金額は、説明のため百万円未満を四捨五入等で調整し、百万円単位で表しています。)

資金収支計算書

2011年度法人総合資金収支計算書は表1のとおりです。

[()内は予算比: +は増加、△は減少]

(1)収入の部

学生生徒等納付金収入

465億5,000万円(△1億3,300万円)

授業料収入は、大学で予算積算時の収納見込額からの差異による減少等により1億6,203万円の減収です。

手数料収入

22億1,100万円(+1億9,900万円)

入学検定料は、予算計上数に対する入学志願者数の増加により、大学で8,892万円、女子大学で8,065万円の増収ならびに、香里中高、及び女子中高における中学校入試後期日程の導入により、それぞれ1,340万円、816万円の増収です。

寄付金収入

7億1,700万円(+1億9,700万円)

民間企業等、在学生の保護者、卒業生、父母の会、校友会、教職員等からの寄付の他、研究助成宛の奨学寄付や大学の今出川キャンパス新校舎建設資金宛の寄付、事業会社からの寄付の増額により、大学で予算に対して1億8,300万円の増収、女子大学でも3,800万円の増収となりました。寄付金明細はファクトブックに掲載しています。

補助金収入

58億4,100万円(+2,000万円)

国庫補助金は、日本私立学校振興・共済事業団等から大学、女子大学への私立大学等経常費補助金、文部科学省から大

学への国際化拠点整備事業費補助金、私立学校教育研究装置等施設整備費補助金、大学改革推進等補助金などで、予算に対して5,700万円減収の41億4,300万円となりました。

地方公共団体補助金は、京都府や大阪府等から各中高、小学校、国際学院、幼稚園への私学運営費補助金、授業料軽減補助金、また高校授業料無償化に伴う補助金などで、予算に対して7,600万円増収の16億9,500万円となりました。

補助金明細はファクトブックに掲載しています。

資産運用収入

10億3,700万円(+1億2,400万円)

第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産の平均運用利回りの実績は約1.3%となり、8,200万円の増収、施設設備利用料収入は、4,200万円の増収となりました。

資産売却収入

115億5,200万円(+87億7,200万円)

第2号基本金引当資産売却収入は、建設事業への充当、第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産売却収入は、満期を迎えた有価証券の償還などによるものです。

事業収入

11億1,800万円(△5,400万円)

企業等からの受託研究による収入、寮費や小学校給食費の収入、セミナー受講料収入などを計上しています。大学の受託事業収入は、受託研究契約に基づく増収の一方、京都市から受け入れた烏丸キャン

パス土壌汚染対策工事費用の収入科目振替により、1億960万円の減収ですが、実質的な減収ではありません。

雑収入

15億8,500万円(+3億2,500万円)

退職金財団交付金収入は10億8,700万円で、依願退職者の見込みからの増加により3,000万円の増収、競争的資金にかかわる間接経費等の受け入れなどにより、その他雑収入で2億9,400万円の増収となりました。

(2)支出の部

人件費支出

294億800万円(△4,600万円)

教員人件費は202億2,600万円で、予算に対して4,300万円の減少、職員人件費は73億2,500万円で4,800万円の減少となりました。退職金支出は18億2,100万円で、依願退職者数の見込みからの増加に伴い、4,500万円増加しました。

なお、前年度に比べると、教員人件費は7億2,100万円の増加、職員人件費は1,700万円の減少となっています。

教育研究経費支出

147億3,300万円(△7億1,600万円)

建設事業において、予算では施設関係支出などに資本的支出として一括計上していたうち経費支出となったことに伴う増加がある一方で、教育研究費、実験実習費の予算執行残や、消耗品費、旅費交通費で節減や予算未執行により、総額では予算内に収まりました。

表1 2011(平成23)年度 法人総合資金収支計算書

(単位:百万円)

支出の部				収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費支出	29,454	29,408	46	学生生徒等納付金収入	46,683	46,550	133
教育研究経費支出	15,449	14,733	716	手数料収入	2,012	2,211	△199
管理経費支出	2,407	2,379	28	寄付金収入	520	717	△197
借入金等利息支出	34	34	0	補助金収入	5,821	5,841	△20
借入金等返済支出	349	349	0	資産運用収入	913	1,037	△124
施設関係支出	6,789	6,169	620	資産売却収入	2,780	11,552	△8,772
設備関係支出	2,214	1,953	261	事業収入	1,172	1,118	54
資産運用支出	4,779	13,340	△8,561	雑収入	1,260	1,585	△325
その他の支出	2,526	2,584	△58	前受金収入	9,110	9,683	△573
予備費	120	0	120	その他の収入	1,616	1,585	31
資金支出調整勘定	△1,901	△1,411	△490	資金収入調整勘定	△11,123	△11,636	513
次年度繰越支払資金	20,608	22,769	△2,161	前年度繰越支払資金	22,064	22,064	0
支出の部合計	82,828	92,307	△9,479	収入の部合計	82,828	92,307	△9,479

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した資金収支計算書を掲載しています。

なお、前年度に比べると、建設事業費の執行の減少に加え、各事業での節減や予算執行残等により6,100万円の減少となっています。

管理経費支出

23億7,900万円(△2,800万円)

消耗品費、旅費交通費、通信費、広告費の予算執行残や節減により、総額では予算内に収まりました。

借入金等利息支出

3,400万円(予算どおり)

過年度に建設した校舎等の建築資金に対する日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の利息支払額です。

借入金等返済支出

3億4,900万円(予算どおり)

上記借入金の約定返済額です。

施設関係支出・設備関係支出

計81億2,200万円(△8億8,100万円)

土地、建物、構築物、機器備品、図書、ソフトウェアなどの固定資産取得による支出です。なお、固定資産への計上が必要とされるリース取引にかかるリース料総額を含んでいます。

大学では今出川校地整備事業ならびに脳科学研究科整備事業、香柏館・自然系実験実習棟整備事業、女子大学では京田辺キャンパス施設経年対策事業である頌

啓館、恵真館改修工事、香里中高では創立60周年記念事業である新高校校舎棟建設ならびに、有朋館耐震・改修工事を実施しました。

内訳については、各校の「事業の概要」の「施設設備整備事業の内容」をご覧ください。

資産運用支出

133億4,000万円(+85億6,100万円)

有価証券の満期償還に伴う引当資産などの買い替え、また本年度に増額した第2号基本金、第3号基本金、退職給与引当金、減価償却引当資産に対する引当資産への繰り入れです。

学校会計の用語解説

学校法人会計基準に基づいて作成する財務計算書類には大きく分けて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表の3つがあります。

資金収支計算書

当該年度の支払資金の顛末、すなわち学校法人の1年間の諸活動に伴うお金の動きを網羅したものです。

消費収支計算書

当該年度の経営状況を表すものです。しかし、企業会計の損益計算書のような利益の測定が目的ではなく、収支の対応や均衡状態を示すことに主眼が置かれています。学校法人の使命は教育研究の永続的な充実発展であることから、財政基盤の安定を重視しているのです。

貸借対照表

一定時点(3月末現在)の財産の状況を明らかにするものです。

計算書で使用する用語とその意味は次のとおりです。

帰属収入

当該年度の収入のうち、学校法人の負債とならない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

基本金組入額

基本金とは、学校法人がその諸活動の計画に基づいて継続的に維持すべき資産で、下記の第1号から第4号に該当するものです。これは帰属収入の中から充当します。これを基本金の組入(くみいれ)といいます。

第1号基本金は自己資金による土地、建物、設備などの固定資産の取得額、第2号基本金は将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額、第3号基本金は基金の積立額、第4号基本金は恒常的に保持すべきものとされる1カ月分の運転資金相当額です。

消費収入

当該年度の消費に充てる収入で、帰属収入から基本金組入額を差し引いたものです。

消費支出

人件費、物件費、減価償却額、借入金利息など当該年度に消費する支出です。

教育研究経費と管理経費

物件費は、直接教育研究に要するものとそれ以外の経費に分類します。後者に該当するのは、役員の業務執行、総務・人事・財務・経理その他法人業務、教職員の福利厚生、学生募集、食堂や売店、学寮(全寮制を除く)に要する経費などです。

消費収支差額

消費収入と消費支出の差額で、財政の均衡状態を表します。これがマイナスであると、消費支出超過いわゆる赤字で、収支が均衡せず資金不足となっていることを示します。

消費収支計算書

表2 2011(平成23)年度 法人総合消費収支計算書

(単位：百万円)

消費支出の部				消費収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費	29,984	29,575	409	学生生徒等納付金	46,683	46,550	133
教育研究経費	20,428	19,717	711	手数料	2,012	2,211	△199
うち 減価償却額	4,979	4,984	△5	寄付金	520	874	△354
管理経費	2,639	2,612	27	補助金	5,821	5,841	△20
うち 減価償却額	232	233	△1	資産運用収入	913	1,037	△124
借入金等利息	34	34	0	資産売却差額	0	10	△10
資産処分差額	289	364	△75	事業収入	1,172	1,118	54
徴収不能引当金繰入額	87	80	7	雑収入	1,260	1,585	△325
徴収不能額	0	13	△13	徴収不能引当金取崩額	0	8	△8
予備費	120	0	120	帰属収入合計	58,381	59,234	△853
				第1号基本金組入額	△4,662	△3,941	△721
				第2号基本金組入額	△3,190	△3,315	125
				第3号基本金組入額	△60	△65	5
				第4号基本金組入額	△149	△149	0
				基本金組入額合計	△8,061	△7,470	△591
消費支出の部合計	53,581	52,395	1,186	消費収入の部合計	50,320	51,764	△1,444
当年度消費収支差額	△3,261	△631					
前年度繰越消費収支差額	△25,637	△25,637					
基本金取崩額	48	169					
翌年度繰越消費収支差額	△28,850	△26,099					

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した消費収支計算書を掲載しています。

2011年度法人総合消費収支計算書は表2のとおりです。

〔()内は予算比：+は増加、△は減少〕

(1) 帰属収入の部

592億3,400万円(+8億5,300万円)

手数料、寄付金、補助金、資産運用収入等の増収により、予算比1.5%の増加となりました。国際学院用地取得にかかわる現物寄付金などによる増収があった前年度と比べると、5億6,300万円減っています。

(2) 基本金組入額の部

第1号基本金組入額

39億4,100万円(△7億2,100万円)

固定資産増加額は施設、及び設備関係支出、現物寄付で82億8,000万円、過年度事業にかかわる借入金等返済支出は3億4,800万円となり、一方で施設や設備の更新による当期除却高は19億3,100万円、過年度に組入れた第2号基本金からの振替額は27億6,000万円となっています。

第2号基本金組入額

33億1,500万円(+1億2,500万円)

将来に教学施設設備などを取得するため、計画に基づいて資金の組入を行いました。

第3号基本金組入額

6,500万円

奨学事業に宛てた寄付金の組入や、教育研究事業を継続的に維持するため設定した基金への組入などです。

基本金明細はファクトブックに掲載しています。

(3) 消費支出の部

523億9,500万円(△11億8,600万円)

施設や設備の処分や更新による未償却額3億3,300万円を含む資産処分差額、徴収不能額で予算を上回りましたが、人件費、教育研究経費、管理経費は、経費の節減や執行残等により、予算内に収まりました。消費支出は予算に対して2.2%の減少となり、前年度に比べると5億9,000万円、1.1%増加となっています。

(4) 消費収支差額の部

当年度消費収支差額

△6億3,100万円

帰属収入が増収となる一方、基本金組

入と消費支出が減少したことから、消費収支差額は予算に対して26億3,000万円改善しました。

翌年度繰越消費収支差額

△260億9,900万円

消費収支の推移

図3は消費収支の均衡状態の推移を示したものです。

帰属収入は堅調に増加し、支出では大規模な建設事業を行った年度で基本金組入額が増加しています。

図4、5は帰属収入と消費支出の主な科目の伸び率です。

帰属収入では、学生生徒等納付金のなだらかな上昇カーブに対して、手数料、補助金、事業収入が02年度を境に顕著に伸びており、収入構造の多様化が進んできました。事業収入の大きな伸びは、受託研究事業などの産官学連携の進展によります。

消費支出では、教育研究活動の活性化を反映して教育研究経費が伸び、学部・研究科の新設や計画的な教員増員により人件費が増加しています。

資産運用のリスクに対応するために

学校法人の資産は教育研究活動を安定的・継続的に支えるための大切な財産であり、資産の運用に際しては、安全性が強く求められます。そのため、学校法人同志社では、資産運用の対象や基準を定めると共に、資金運用委員会を設

け、運用計画の立案、運用状況の管理、運用結果の点検などを行い、その内容を適宜理事会に報告しています。

特に2007年夏以降、米国のサブプライムローン問題を契機に始まった世界的な金融危機によ

り、運用資産(債券)の時価が下落するなど運用リスクが高まったため、「有価証券の評価換え」ならびに「運用債券の損失時の対応」に関する取り扱いを定め、適切な運用管理に努めています。

図1 帰属収入の構成比

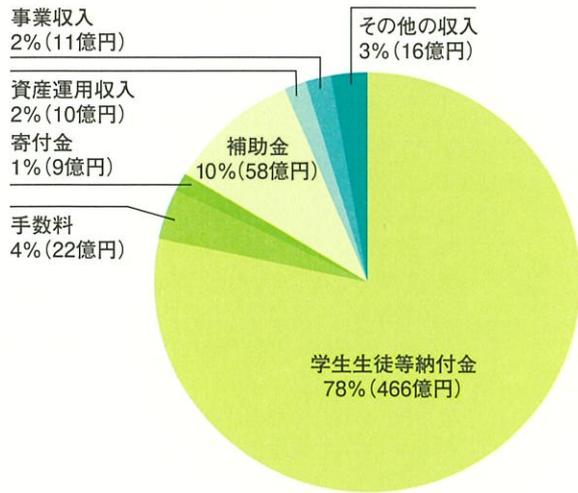


図2 消費支出+基本金組入額の構成比

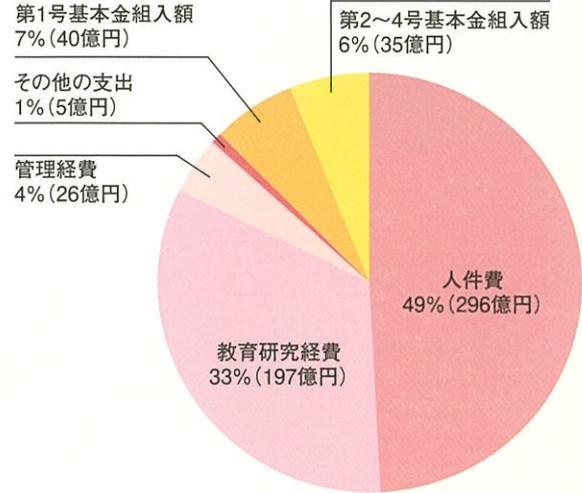


図3 消費収支の推移

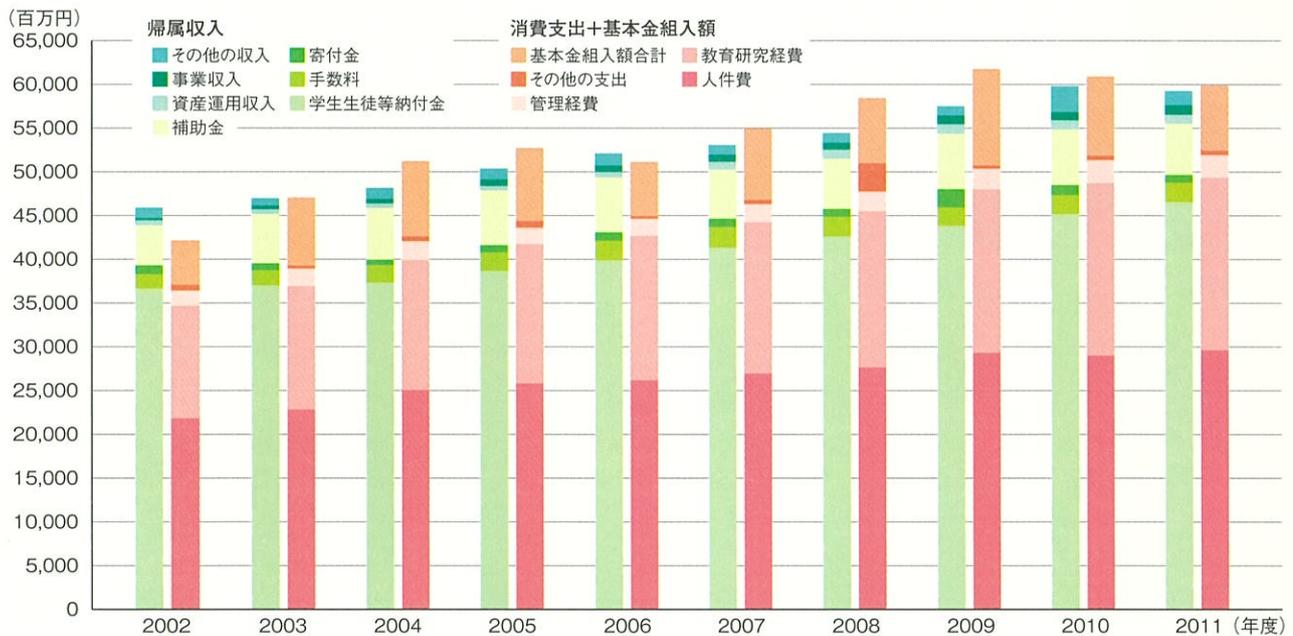


図4 帰属収入の伸び率

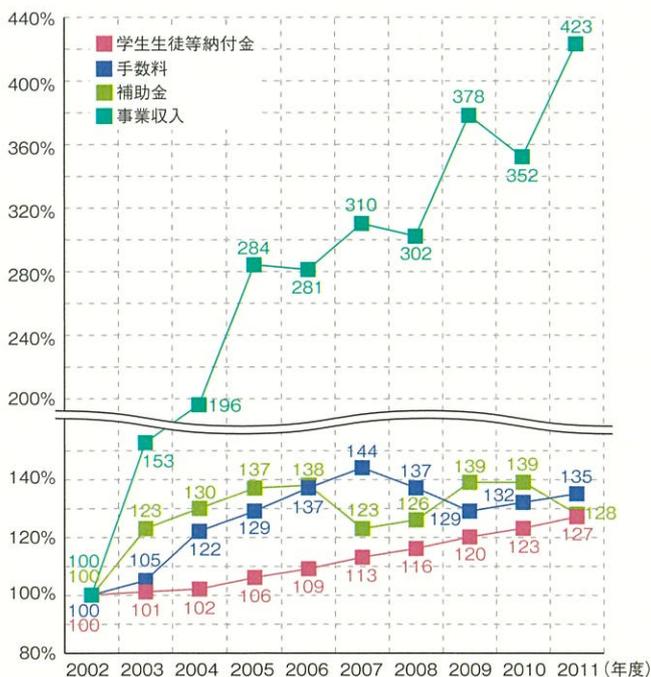
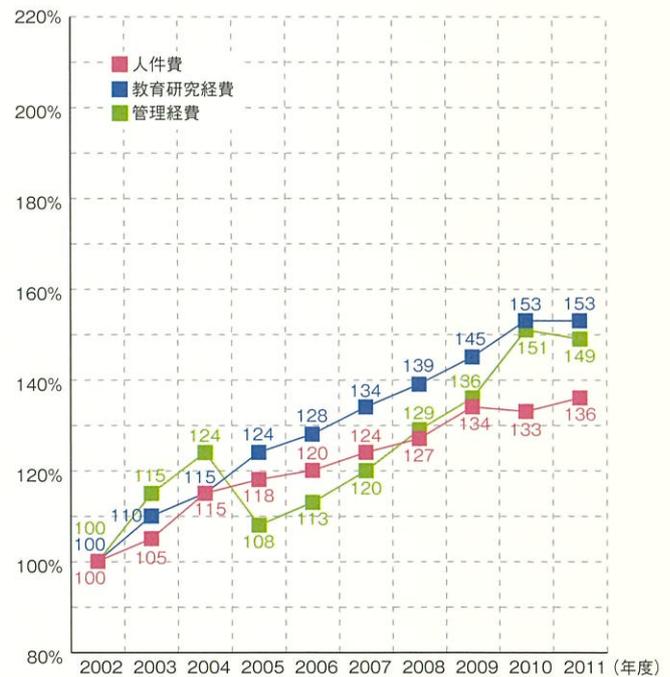


図5 消費支出の伸び率



事業別決算

表3 2011(平成23)年度事業別決算書

(単位:百万円)

事業費項目	合計	内訳		構成比
		消費支出にか かる金額	基本金組入に かかる金額	
人件費	29,536	29,536		48.7%
事業費				
教育研究費	8,884	7,555	1,329	14.6%
学生生徒経費	1,695	1,680	15	2.8%
施設設備整備充実費	1,235	879	356	2.0%
維持運営費	3,360	3,340	20	5.5%
一般管理費	2,159	2,019	140	3.6%
建設事業費(建設勘定)	7,604	1,343	6,261	12.5%
法人経費	426	424	2	0.7%
基本金	3,529		3,529	5.9%
財務費	△ 2,987	1,364	△ 4,351	△ 4.9%
減価償却費	5,217	5,217		8.6%
合計	60,658	53,357	7,301	100.0%

学校別明細はファクトブックに掲載しています。

事業費には次の経費を含んでいます。

教育研究費……消費収支計算書の教育研究経費。ただし、下記で計上する事業費、及び減価償却費を除く
 学生生徒経費……奨学金、課外活動支援費、学寮にかかわる経費など

施設設備整備充実費……修繕料、整備費など

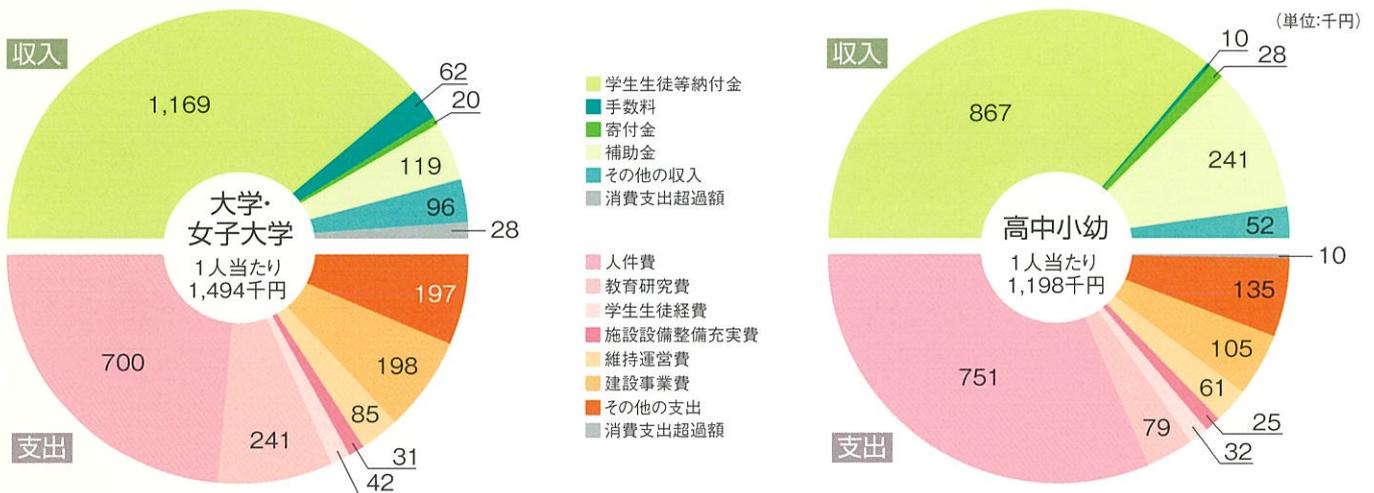
維持運営費……通信費、光熱水費、保守料、清掃委託費、警備委託費用など

一般管理費……消費収支計算書の管理経費。ただし、上記で計上する事業費、減価償却費を除く

基本金……消費収支計算書の第2～4号基本金組入額

財務費……借入金利息、資産処分差額、徴収不能引当金繰入額、現物寄付金、当期除却高、第2号基本金取崩額など

図6 学生・生徒・児童・園児1人当たりの収入・支出



貸借対照表

2011年度法人総合貸借対照表は表4のとおりです。図7は過去10年間の貸借対照表推移をグラフ化したものです。消費収支差額は支出超過であるため、棒グラフの基本金の先端部分に網掛けで表現しており、この部分が資金不足額となります。

(1) 資産の部

固定資産のうち有形固定資産は、教育研究活動の拠点となる土地、建物、構築物や機器備品の整備充実により増加してきました。03年度は大学寒梅館、04年度は女子大学憩水館、05年度は大学臨光館、小学校明心館、07年度は大学医心館、磐上館の建設、08年度は大学継志館の取得、女子大学純正館、高等学校桑志館、恵潤館の建設、09年度は大学多々羅キャンパスの取得、中学校教室棟(立志館)建設、10年度は、大学烏丸キャンパスの取得、

国際学院教室棟(抱志館)建設、香里中高新特別教室棟建設などによります。また、11年度増加の建設仮勘定は、今出川校地整備事業によるもので、翌年度以降に建物等になります。

その他の固定資産は、第2号基本金、第3号基本金、退職給与、減価償却の引当資産を増額しました。この結果、本年度末の固定資産総額は、前年度比2.2%増加の2,057億4,400万円となりました。

流動資産は、現金預金、未収入金などで、本年度末は前年度比5.4%増加の246億8,300万円です。

(2) 負債・基本金・消費収支差額の部

固定負債のうち長期借入金は、計画的な返済により着実に減少を続け、残高は10年前の6分の1程度となりました。退職給与引当金は、期末要支給額の100%を

引き当てています。

流動負債は新入生学費の前受金が大部分を占めています。

基本金は、第1号基本金が自己資金による固定資産の取得と借入金の返済などで前年度比3.4%増の1,947億5,900万円、第2号基本金は計画に基づく組入と建設事業への充当により前年度比6.0%増加の97億2,500万円、第3号基本金は前年度比0.3%増加の189億7,900万円、第4号基本金は前年度比4.2%増加の36億7,700万円となっています。

消費収支差額は、帰属収入が堅調に推移している一方で、大規模な建設事業を自己資金で賄っているため消費支出超過となり、翌年度に繰り越す消費支出超過額は260億9,900万円となりました。

また、減価償却額累計額は687億3,600万円となっています。

財務比率

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年変化の追跡や全国平均との比較を行い、財政状況の分析に利用するものです。表5、6は本学と全国平均の比較、図8、9は本学の過去10年間の推移グラフです。

消費収支計算書関係比率について本学の指標値を全国平均と比較すると、学生生徒等納付金比率は高く、補助金比率は低めで、学費への依存度が比較的高い収入構造となっています。経費に関する比率では、低い方が良いとされる人件費比率と管理経費比率は共に全国平均内にあります。また教育研究経費比率は教育研究の充実度を表し、高い方が望ましいと

されており、本学は全国平均を上回っています。

学校法人は帰属収支差額の中から基本基金組入額を賄うため、帰属収支差額比率は10%以上が望ましいとされています。本学の帰属収支差額比率は、世界的な金融危機の影響を受け、運用資産の評価差額の計上により6.4%となった08年度を除き、04年度以降11%～13%台で推移しています。

貸借対照表関係比率では、固定比率や固定長期適合率で土地、施設設備などの固定資産が自己資金で賄えているかどうかを見ます。負債比率や総負債比率は、自己資金に対する負債、すなわち他人資

金の割合です。また、基本基金比率は、基本基金組入の対象となる資産に対して組入れ済みの基本基金がどれだけあるかを示すものです。

流動比率は、流動資産の増加や流動負債の減少により、196.9%となっています。また、新規建設事業は借入金に依存せず自己資金で行っており、基本基金比率も着実に増加しています。

教学組織の新設、施設設備の充実など活発な教学改革の影響から収支バランスが一時的に崩れる年度がありますが、自己資金の安定的確保、固定資産、及び基本基金の充実、借入金等外部負債の減少の状況が指標値に表れています。

表5 消費収支計算書関係比率

比率	算式(×100)	評価指標	本学	全国平均
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	78.6	73.4
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↑	1.5	2.6
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↑	9.9	12.4
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↓	49.9	52.9
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↑	33.3	30.9
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↓	4.4	8.8
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↑	11.5	4.4

表6 貸借対照表関係比率

比率	算式(×100)	評価指標	本学	全国平均
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↓	102.3	99.8
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↓	94.4	92.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	196.9	236.6
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↓	14.6	14.7
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	12.8	12.8
基本基金比率	$\frac{\text{基本基金}}{\text{基本基金要組入額}}$	↑	99.2	97.0

評価指標 ↑高い値が良い ↓低い値が良い 全国平均:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2010年度数値

図8 消費収支計算書関係比率の推移

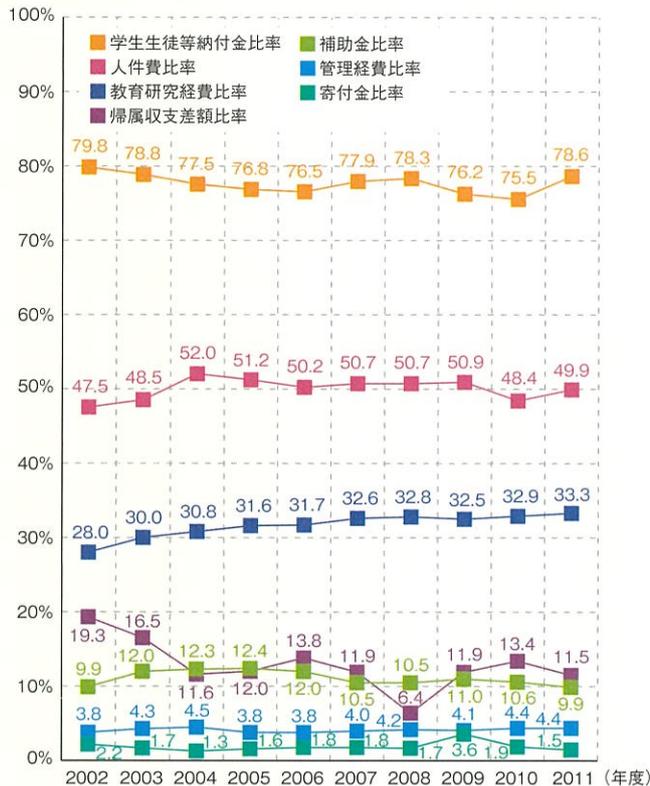
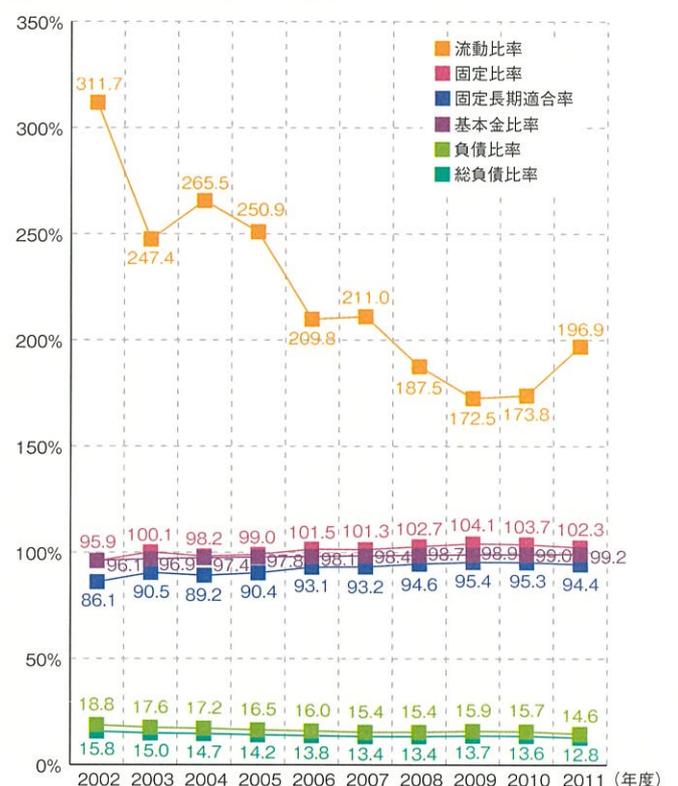


図9 貸借対照表関係比率の推移



学校別の状況

各学校の収支状況を表7「学校別収支計算書」によって説明します。

大学では、入学検定料等手数料、寄付金、補助金、競争的資金にかかわる間接経費を含む雑収入などの増収などにより、帰属収入合計は403億4,200万円と前年度に比べて0.7%の増加となりました。基本金組入額は、今出川校地整備事業、脳科学研究科整備事業、香柏館・自然系実験実習棟整備、晩晴草堂耐震改修工事、多目的ホール屋根外壁改修、高圧ケーブル更新などの事業を実施し、将来の施設整備のための第2号基本金などとあわせて57億7,600万円となりました。

消費支出は、人件費、教育研究経費、管理経費の予算執行残や節減により減少しているほか、資産処分差額や徴収不能額、繰入金が増額はありましたが、合計では353億8,600万円と前年度に比べて1.4%の減少となり、この結果、8億2,000万円の消費支出超過となりました。

女子大学では、補助金での減収はありましたが、学生生徒等納付金、手数料、寄付金などの増収により、帰属収入合計は104億7,700万円と前年度に比べて1.3%の増加となりました。基本金組入額は、

今出川・京田辺キャンパスとも施設経年対策事業を実施し、第2号基本金などとあわせて9億9,500万円となりました。

消費支出は、人件費、教育研究経費、管理経費等の予算執行残により、合計では89億5,400万円となり、前年度と比べて2.7%の増加となり、この結果、5億2,800万円の消費収入超過となりました。

各中高・幼稚園では、学生生徒等納付金で前年度並みの収入を確保しています。国際学院では開設初年度を迎え、今後学年進行に伴い増収を見込んでいます。基本金組入額は、香里中学校・高等学校で、新高校校舎棟建設事業などを実施し7億円、国際中学校・高等学校で啓真館など冷暖房設備更新を実施し2,600万円、第2号基本金で、中学校・高等学校1億2,500万円、女子中学校・高等学校2億9,000万円、国際中学校・高等学校1億円、第3号基本金で、幼稚園1,000万円を組み入れています。

小学校は開校以来、支出を収入で賄うことができない収支の不均衡が続きましたが、開校6年目で収容定員を満了す完年度を迎え、収支不均衡の解消が進んでいます。

法人部勘定では、各学校の建設事業資

金の法人内での資金調達額、及び償還額を繰入金と繰出金に計上しています。また、運用資産の評価換えによる評価差額3,100万円を資産処分差額に計上していますが、資産運用収入により評価差額を補填し、2011年度内に処理を終了しています。

特別会計では、年金会計、住宅会計を計上しています。2011年度は年金会計の引当資産不足に対応するため、3,900万円を繰り入れています。

収支計算書について

この計算書は学校法人会計基準による消費収支内訳表の体裁をとりつつも、部門間のみなし配分を避け、内部取引の収支を明らかにする目的で、計上方法を一部変更しています。

すわなち、学校法人部門は大学に、新設学部等の開設前の収支は、それぞれの設置校に含めています。中高、香里、女子、国際の各中学校・高等学校は中高の合計額で、大学附属の小学校、国際学院も独立した部門として表示しています。また、内部取引の各校認識額については繰入金・繰出金に、法人にかかわる経費の各校分担額は分担金(支出)に、それぞれ計上しています。

表7 2011(平成23)年度 学校別収支計算書

(単位：百万円)

	大学	女子大学	中高	国際中高	香里中高	女子中高	小学校	国際学院	幼稚園	法人部勘定	特別会計	合計
学生生徒等納付金	31,184	9,203	1,756	991	1,294	1,304	537	234	47			46,550
手数料	1,794	344	15	13	23	15	3	3	1			2,211
寄付金	601	74	47	45	21	35	32	8	11			874
補助金	3,705	422	511	266	435	359	100	22	21			5,841
資産運用収入	692	219	14	8	16	16	5		3	31	33	1,037
資産売却差額	10											10
事業収入	899	78		73			64	4				1,118
雑収入	1,300	122	69	29	5	52	2	1	5			1,585
繰出金	28	8	45	8	507	6	1	19		245	39	906
徴収不能引当金取崩額		7	1									8
分担金	129											129
帰属収入合計	40,342	10,477	2,458	1,433	2,301	1,787	744	291	88	276	72	60,269
基本金組入額合計	△ 5,776	△ 995	△ 165	△ 186	△ 3	△ 316	△ 12	△ 7	△ 10			△ 7,470
消費収入の部合計	34,566	9,482	2,293	1,247	2,298	1,471	732	284	78	276	72	52,799
人件費	19,680	4,519	1,503	895	1,054	1,090	424	321	50		39	29,575
教育研究経費	13,955	3,551	672	290	508	270	252	196	23			19,717
管理経費	1,547	777	52	101	53	28	13	39	2			2,612
借入金等利息	16		2	9	6	1						34
資産処分差額	33	1			298		1			31		364
繰入金	72	8	250	6	2					535	33	906
徴収不能引当金繰入額	71	5	4									80
徴収不能額	12	1										13
分担金		92	12	7	9	9						129
消費支出の部合計	35,386	8,954	2,495	1,308	1,930	1,398	690	556	75	566	72	53,430
当年度消費収支差額	△ 820	528	△ 202	△ 61	368	73	42	△ 272	3	△ 290	0	△ 631

2012年度の事業計画

■ 教学組織

大学では、脳の仕組みを研究対象とし、自己学習力、人的交流力など高度の専門知識を駆使できる基礎力を涵養することをめざす「脳科学研究科発達加齢脳専攻」(5年一貫制博士課程)を学研都市キャンパスに開設します。また、京田辺校地では、スポーツ健康科学研究科において、教育研究をさらに発展させ、新たな枠組みの構築や深化した理論を提示できる人材を養成するため、修士課程から博士課程へと課程変更し、生命医科学研究科においては、教育研究目的をより明確に実行できる組織へと改組し、高度な能力を有する研究者や技術者の養成という社会的要求にも応えるため、生命医科学専攻を医工学・医情報学専攻と医生命システム専攻の2専攻へと再編します。

女子大学では、高度化した薬物治療における医療と創薬科学をつなぐ医療薬学の研究・実践によって難病の克服や医薬品の安全使用などの社会的要請に応え、医療薬学の充実に貢献できる高度な専門性や優れた研究能力を有する高度専門的職業人、及びその人材を育成する指導者の養成を目的とし、薬学研究科医療薬学専攻博士課程(4年制)を開設します。

■ 教育研究

大学では、頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムとして「多文化共生時代における一神教コミュニティ間の相互作用と対話」が11年度に新

たに選定され、10年度に選定された同プログラムの「歴史遺産と近代国民的歴史意識の形成」、「グローバルイノベーション研究・教育ネットワークによる若手研究者の頭脳循環力の涵養」、研究者海外派遣基金助成金の「視覚機能再生研究における国際的・統合的視野を持つ橋渡し研究推進者の育成」と共に、特色ある優れた取り組みとして評価を受けている様々な教育改革を進め、一層の教育効果向上に向けて取り組んでいきます。

女子大学では、現代社会学部現代こども学科に、保育士養成課程を開設。また、学部教育の充実を目的として、ティーチング・アシスタント制度を導入します。

■ 学生生徒支援

大学では、大学院教育の充実と研究者の養成に努める「博士後期課程若手研究者育成奨学金」、「脳科学研究科特別奨学金」を新設し、年間学費相当額の奨学金を給付して、経済的不安を最小限に抑え、勉学、研究に専念できる環境を提供します。また、障がい学生支援としては、支援システムのリプレイス、及びモバイル型授業情報保障システムを導入します。

また各高等学校において、就学支援に伴う奨学金により、学生生徒への支援に努めていきます。

■ 建設事業

大学では、13年度に予定する文、法、経済、商学部の1・2年次教育の今出川校地における展開と、文系全学部の一貫教育

体制の実現に向け、今出川新棟、烏丸新棟、新会議棟の建設工事が完成します。また、博遠館耐震、至誠館免震、礼拝堂改修の各工事に着手し、心理学部開設に伴う香柏館・自然系実験実習棟の整備事業も継続して行います。

女子大学では、17年度完成をめざして今出川キャンパス整備事業に着手するほか、栄光館空調設備等改修、京田辺キャンパスの受変電設備の更新などを行います。

香里中学校・高等学校では、創立60周年記念事業として新教室棟、香友館などの建設工事、及び香真館の空調設備、グラウンド整備などを行います。

中学校・高等学校では、13年度完成をめざし、校地整備事業に着手します。

■ その他の事業

大学では、国際的教育研究拠点として、留学生受け入れの増加に対応し、ハード面では留学生宿舎の拡大、ソフト面ではグローバル・キャンパスの形成に向けたサポート体制充実のため、レベル別コーディネーターの導入や海外からのオンライン出願登録システムの導入、ならびに留学生別科生の定員増に対応した新たな奨学金制度を設けます。

法人事業では、NHK大河ドラマ「八重の桜」放映に伴いプロジェクトを立ち上げ、大学ではブックレットやレプリカの作成、シンポジウム開催などを行い、女子大学では「同志社女学校の創成期と新島八重」をテーマに関連事業を行います。

表8 2012(平成24)年度以降の収支見通し

(単位:百万円)

収入の部	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
学生生徒等納付金	45,840	47,592	47,978	47,971
手数料	2,048	2,017	2,017	2,016
寄付金	418	499	517	480
補助金	5,592	5,910	5,919	5,919
資産運用収入	883	887	904	924
事業収入	568	566	566	566
雑収入	890	779	816	544
帰属収入合計	56,239	58,250	58,717	58,420
基本金組入額合計	△ 8,956	△ 3,193	△ 4,027	△ 3,982
消費収入の部合計	47,283	55,057	54,690	54,438
人件費	29,623	29,692	29,836	29,516
教育研究経費	20,264	20,707	20,544	20,572
管理経費	2,658	2,515	2,515	2,512
借入金等利息	27	20	14	9
資産処分差額	204	160		
徴収不能引当金繰入額	156	79	79	79
予備費	351			
消費支出の部合計	53,283	53,173	52,988	52,688
基本金取崩額	16			
当年度消費収支差額	△ 5,984	1,884	1,702	1,750

理事、監事、評議員

理事 (○印 理事長)

大谷 實 (総長)
○八田 英二 (大学長)
加賀 裕郎 (女子大学長)
水谷 誠 鈴木 直人 (学校長等互選)
濱 直樹 宮庄 哲夫 中村 友二 西山 啓一
西澤 由隆 余田由香利 横井 和彦 (評議員互選)
井上 礼之 西村 公雄 立石 信雄 (学識経験者)

監事

長谷川正治 畑 肇 岩山太次郎

評議員 (○印 議長)

○雨谷 昭弘 今川 一彦 伊東 徳治 松尾 博文
宮崎 與也 宮庄 哲夫 中村 信博 西川 真司
西澤 由隆 瀬川 貴之 園田 毅 鋤柄 俊夫 (教職員互選)
恒岡 清 鶴飼 哲夫 横井 和彦
福永 晃三 船越 照平 濱 直樹 木村 健二
南 美樹 中村 公紀 中村 友二 坂 光司
上野 道雄 山下 泰生 柳井 繁彌 (校友会選定)
阿部登茂子 村田 良子 西郷恵美子 余田由香利 (同窓会選定)
浅香 正 藤倉皓一郎 児玉 實英 三浦 竹泉
望月 修治 西山 啓一 大橋 寛治 (理事会選定)

2012年4月現在

沿革

1875 (明治 8) 年 11月 29日 官許「同志社英学校」を開校
新島襄初代社長に就任
1876 (明治 9) 年 9月 今出川校地 (相国寺門前の薩摩藩邸跡) に
校舎、食堂を建て寺町から移る
10月 京都御苑内の旧柳原邸
(現・京都迎賓館の一部) で女子塾を開設
1877 (明治10) 年 4月 同志社分校女紅場を開設
9月 女紅場を同志社女学校と改称
1883 (明治16) 年 2月 「同志社社則」を制定
1884 (明治17) 年 4月 新島、2度目の海外旅行に出発 (翌年12月帰国)
9月 同志社最初の煉瓦建築、彰栄館竣工
(国の重要文化財)
1886 (明治19) 年 6月 新礼拝堂 (チャペル) 竣工 (国の重要文化財)
1887 (明治20) 年 11月 書籍館 (現・有終館) 開館 (国の重要文化財)
同志社病院・京都看護婦学校の開院、開校式
1888 (明治21) 年 11月 「同志社大学設立の旨意」を
全国の主要雑誌・新聞に発表
1890 (明治23) 年 1月 23日 新島、静養先の神奈川県大磯にて永眠 (46歳)
7月 アメリカの実業家J.N.ハリスの10万ドルの
寄付によるハリス理化学館竣工
(国の重要文化財)
9月 ハリス理化学校開校
1891 (明治24) 年 9月 政法学校開校
1892 (明治25) 年 6月 [女学校] 本科を普通科、高等科を
専門科 (師範科、文学科、神学科) に改める
1893 (明治26) 年 10月 同志社徽章 (校章) を制定
1894 (明治27) 年 1月 神学館 (現・クラーク記念館)
開館式 (国の重要文化財)
1896 (明治29) 年 4月 普通学校を同志社高等普通学校と改称し、
新たに同志社尋常中学校を開校
1897 (明治30) 年 3月 M.F.デントン、出町幼稚園
(現・同志社幼稚園) を開園
1900 (明治33) 年 出町幼稚園を今出川幼稚園と改称
1901 (明治34) 年 3月 [女学校] 普通科を高等普通科と改め、
新たに専門学部を設置
1904 (明治37) 年 4月 専門学校令による神学校と専門学校を開校
政法学校廃校
1906 (明治39) 年 4月 同志社病院・京都看護婦学校閉鎖
ハリス理化学校廃校
1908 (明治41) 年 同志社カレッジソングができる
1912 (明治45) 年 4月 専門学校令による同志社大学
(予科、神学部、政治経済学部、英文科)、
女学校専門学部 (英文科、家政科) を開校
1920 (大正 9) 年 4月 大学令による同志社大学
(文学部、法学部、大学院、予科) の開校
1922 (大正11) 年 4月 専門学校令による大学を専門学校
(神学部、英語師範部、高等商業部、
政治経済部) として再編成
1928 (昭和 3) 年 1月 [女学校] 普通学部を女学校高等女学部と改称
1929 (昭和 4) 年 4月 [専門学校] 高等商業部を岩倉に移転
1930 (昭和 5) 年 6月 [女学校] 専門学部を女子専門学校と改称
9月 [女学校] 普通学部を高等女学部と改称
12月 [専門学校] 高等商業部を高等商業学校と改称
1943 (昭和18) 年 4月 中学校令による中学校開校
1944 (昭和19) 年 4月 工業専門学校
(電気通信科、機械科、化学工業科) 開校
1947 (昭和22) 年 4月 新学制により新制中学校、女子中学校発足
1948 (昭和23) 年 4月 新制大学 (神学部、文学部、法学部、経済学部)
新制高等学校、新制定時制商業高等学校、
新制女子高等学校を設置
1949 (昭和24) 年 4月 商学部と工学部を新設し、大学は六学部となる
女子大学 (学芸学部) 開校
高等学校が岩倉校地へ移転
1950 (昭和25) 年 4月 [大学] 大学院修士課程
(神・文・法・経済・商各研究科) を開設

1950 (昭和25) 年 4月 [大学] 短期大学部 (夜間2年制)
(英語・商経・工各学科) 開設
1951 (昭和26) 年 3月 [大学] 教養学部解散 (1948年4月発足)
9月 香里学園を合併し、香里中学校、
同高等学校を開校
1953 (昭和28) 年 4月 [大学] 大学院博士課程開設
1954 (昭和29) 年 4月 [大学] 短期大学部を発展的に解消、
大学2部 (4年制)
(文・法・経済・商・工各学部) 開設
1955 (昭和30) 年 4月 [大学] 工学研究科修士課程開設
1967 (昭和42) 年 4月 [女子大学] 文学研究科修士課程開設
1968 (昭和43) 年 4月 [女子大学] 家政学研究科修士課程開設
1975 (昭和50) 年 創立100周年を迎え、記念事業を行う
4月 [女子大学] 文学研究科博士後期課程開設
1976 (昭和51) 年 3月 商業高等学校廃校
1980 (昭和55) 年 4月 国際高等学校開校
1986 (昭和61) 年 4月 田辺校地 (現・京田辺校地) 開校
大学・女子大学の授業が開始
[女子大学] 短期大学部開設
国際中学校開校
1988 (昭和63) 年 4月 [女子大学] 学芸学部
1989 (平成元) 年 4月 日本語日本文学科開設
[大学] アメリカ研究科開設
1991 (平成 3) 年 4月 [大学] 工学部、及び工学研究科、
1994 (平成 6) 年 4月 理工学研究科を田辺校地
(現・京田辺校地) に統合移転
1995 (平成 7) 年 4月 [大学] 総合政策科学研究科開設
1997 (平成 9) 年 4月 [大学] 昼夜開講制を実施
1999 (平成11) 年 4月 [大学] 留学生別科を開設
2000 (平成12) 年 創立125周年を迎え記念事業を行う
4月 [女子大学] 現代社会学部開設、
短期大学部募集停止
2002 (平成14) 年 4月 [女子大学] 学芸学部
2004 (平成16) 年 4月 [香里中学] 共学化
[大学] 政策学部開設
工学部に情報システムデザイン学科、
環境システム学科開設
司法研究科 (法科大学院) 開設
ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設
[女子大学] 現代社会学部に
現代こども学開設
国際社会システム研究科開設
創立130周年を迎え記念事業を行う
2005 (平成17) 年 4月 [大学] 文学部・文学研究科を再編して
社会学部・社会学研究科開設
文化情報学部開設
[女子大学] 薬学部開設
同志社小学校開校
2006 (平成18) 年 4月 [大学] 文化情報学研究科開設
2007 (平成19) 年 4月 [女子大学] 学芸学部
2008 (平成20) 年 4月 [大学] 生命医科学部開設、スポーツ健康科学
部開設、工学部を再編し理工学部開設、
理工学部に数理システム学開設、
生命医科学研究科開設
2009 (平成21) 年 4月 [大学] 心理学部・心理学研究科開設
[女子大学] 表象文化学部開設
2010 (平成22) 年 創立135周年を迎え記念事業を行う
4月 [大学] スポーツ健康科学研究科開設、
グローバル・スタディーズ研究科開設
[中高] 中学校・高等学校統合
[大学] グローバル・コミュニケーション学部開設
同志社国際学院開校
2011 (平成23) 年 4月 [大学] 脳科学研究科開設
2012 (平成24) 年 4月 工学研究科を理工学研究科と改称
[女子大学] 薬学研究科開設

2012年4月現在